

Corporate Social Responsibility Report Digest

# 九州電力2009

CSRへの取組みをご理解いただくために

CSR報告書ダイジェスト



ずっと先まで、明るくしたい。

# 持続可能な社会の実現に向け、 地域の皆さまと一緒に考えて、行動します。

## お客さまの快適で環境にやさしい毎日に 貢献していくという使命を果たし続けます

九州電力は、創立以来50年以上にわたって、お客さまの日々の生活、そして地域社会の発展に欠かすことができない電気を、安全を最優先に安定してお届けするとともに、価格競争力の強化やオール電化の普及促進、プルサーマル計画などの原子力の推進に努めてまいりました。

九州電力グループをとりまく経営環境は、原油価格の大幅な変動、金融情勢の不安定化や世界的な景気の後退など、先行きの不透明性が強まっております。さらに、長期的には、世界的なエネルギー需要の増大やエネルギー資源の制約の強まり、地球環境問題の重要性の高まりなど、大きく変化していくものと考えられます。

このような状況においても、九州電力は「ずっと先まで、明るくしたい。」をブランドメッセージとする「九州電力の思い」の実現に向けて、安定した電力・エネルギーをしっかりとお届けすることを通じて、お客さまの快適で環境にやさしい毎日に貢献していくという使命を果たし続けてまいります。

## 長期経営ビジョン・中期経営方針に基づき、 全ての方々の価値を持続的に生み出します

九州電力は、このような経営環境の大きな変化と、設備の形成に長期間を要する電気事業の特性を踏まえ、中長期的な観点から“今、着手しないと手遅れになるおそれがある”課題への取組みを推進していくため、本年3月、長期的な経営の方向性を示す「長期経営ビジョン」を四半世紀ぶりに策定いたしました。

このビジョンの実現に向けて、また、至近の急激な情勢変化を踏まえ、これまでの中期経営方針に代わるものとして、当面の施策の方向性を示す「中期経営方針」(2009～2011年度)を策定いたしました。

今後全社を挙げて、大きな時代の変化に的確に対応し、CSR(企業の社会的責任)の観点に基づいた経営を推進することにより、当社の事業活動に関わる全ての方々の価値を持続的に生み出していきます。

## 将来を見すえた電力の安定供給と 地球環境問題への対応に取り組みます

エネルギーセキュリティや地球環境問題の重要性の高まりを踏まえ、原子力を中核としたバランスのとれた電源開発を推進していくとともに、設備の高効率化や高経年化への対応など、長期的に安定した効率的な設備形成を進めてまいります。

特に、原子力につきましては、安全・安定運転を徹底するとともに、2019年度を目途とする川内原子力発電所3号機の開発に向け、地元理解の形成と着実な開発の推進に取り組んでまいります。また、本年度を目途に玄海原子力発電所3号機においてプルサーマルを実施してまいります。さらに、使用済燃料貯蔵施設の増強や中間貯蔵施設の設置に向けた調査・検討に取り組んでまいります。

また、風力・太陽光・水力・地熱など、再生可能エネルギーの積極的な開発や導入に取り組むとともに、更なる普及に向けて協力してまいります。

## 九州電力グループ全体のCSRの定着に努めます

九州電力グループでは、「九州電力グループ経営の基本的な考え方」に掲げる基本理念のもと、九州電力「CSR推進会議」を中心に、グループ全体での「グループCSR推進部会」等を通して、コンプライアンス経営、情報公開、環境経営、人権尊重、地域との共生などの取組みを積極的に行っています。

なお、昨年、九州電力のオール電化パンフレットの一部表示について公正取引委員会から、排除

命令を受けた事例につきましては、全社を挙げて再発防止に取り組むとともに、お客さまにご迷惑とご心配をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。

いま一度、社員一人ひとりが「お客さまのために」とは何か、原点に立ち戻って考え、お客さまの立場に立った業務運営及びコンプライアンス意識の更なる徹底に努めてまいります。

### 皆さまとのコミュニケーションを大切にします

CSRへの取り組みを更に充実させていくため、「九州電力CSR報告書」を発行し、様々な機会を通じて、お客さまをはじめとするステークホルダーの皆さまの「声」をお聴かせいただいています。お寄せいただいたご意見やご要望につきましては、今後の取り組みに反映させることとしています。貴重なご意見をありがとうございました。

今後も、皆さまとのコミュニケーションを通して、CSRへの取り組みを更に充実させるとともに、持続可能な社会の実現に向けて、地域の皆さまと一緒に考えて、行動していきたいと考えております。

皆さま、どうぞ忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。

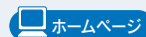
2009年6月



九州電力株式会社 代表取締役社長

眞部利應

社長メッセージ	1
経営理念	3
Close up 1	5
Close up 2	9
コーポレート・ガバナンス	13
CSRマネジメント	14
コンプライアンス経営の推進	15
情報公開の一層の推進	16
環境経営の推進	17
人権の尊重と働きやすい労働環境の整備	19
安全第一主義の徹底	20
地域・社会との共生	21
事業概要	23
財務ハイライト	27
展示施設	29
用語集(巻末)	



ホームページ

本文中、左記マークがある項目は、ホームページに詳細な情報を掲載しています。



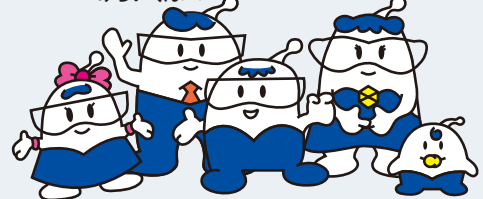
用語集

用語集に解説がある言葉は、各ページの下に表示しています。

### みらいくんファミリー

「みらい」に「はるか」なる「きぼう」をもってほしい。  
それが「みらいくんファミリー」

みらいくんパパ みらいくんママ



はるかちゃん

みらいくん

きぼうくん

この「九州電力2009(CSR報告書ダイジェスト)」は、九州電力グループのCSRへの取り組みをご理解いただくために、その概要をわかりやすくご紹介したものです。

詳細の情報につきましては、別途、「九州電力CSR報告書2009」及び「2009九州電力環境アクションレポート」を発行しております。両報告書は、九州電力ホームページ(<http://www.kyuden.co.jp>)にてご覧いただけますが、冊子をご希望の方は、九州電力の各事業所へご請求ください。



九州電力CSR報告書2009



2009九州電力環境アクションレポート

## 九州電力の思い

ずっと先まで、明るくしたい。

「快適で、そして環境にやさしい」  
そんな毎日を子どもたちの未来に  
つなげていきたい。  
それが、私たち九州電力の思いです。

この思いの実現に向けて、私たちは次の4つに挑戦しつづけます。

- 1 地球にやさしいエネルギーをいつまでも、しっかりと
- 2 「なるほど」と実感していただくために
- 3 九州とともに。そしてアジア、世界へ
- 4 語り合う中から、答えを見出し、行動を

## 九州電力グループ経営の基本的な考え方

九州電力グループは、各社の自立を基本に、以下のグループ全体での経営の基本的な考え方を共有し、グループ一体となった経営を推進していきます。

### 1 基本理念

私たちは、いつの時代においても、お客さまに電力・エネルギーをしっかりとお届けするとともに、社会・生活の質を高めるサービスを提供することを通じ、快適で環境にやさしい持続可能な社会の創造に貢献します。

### 2 経営姿勢

私たちは、お客さまや地域社会をはじめとする事業活動に関わる全ての方々と共に考え、行動することで、持続的に企業価値を生み出していきます。

## 九州電力グループ行動憲章

九州電力グループは、「お客さま」を全ての企業活動の原点として、エネルギーを中核にした商品・サービスの提供を通じ、自らの企業価値を持続的に創造することにより、社会とともに発展することを目指しています。

同時に、国内外を問わず人権を尊重し、快適で豊かな社会の創造に貢献するため、グループ一体となった事業運営を展開しています。

このような企業活動を社会の信頼と共感のもと着実に遂行するため、以下の原則に基づきコンプライアンス経営を推進してまいります。

- 1 お客さま満足の上向
- 2 誠実かつ公正な事業活動
- 3 安全文化の醸成
- 4 コミュニケーション活動
- 5 環境経営の推進
- 6 地域・社会への貢献
- 7 明朗な企業風土づくりの推進
- 8 国際社会との協調
- 9 法令遵守
- 10 本憲章の精神の徹底と経営トップの責務

## 「長期経営ビジョン」及び「中期経営方針」を策定しました。

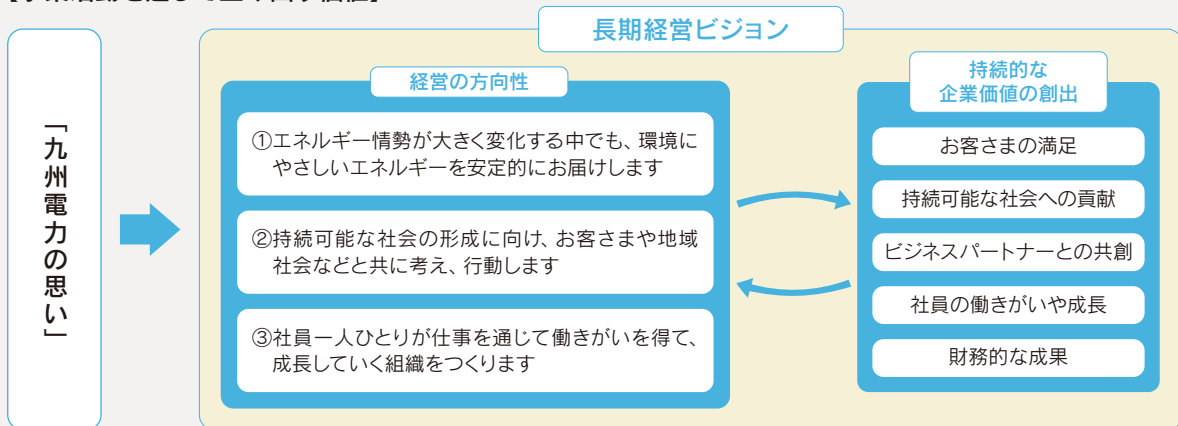
当社は、「ずっと先まで、明るくしたい。」をブランドメッセージとする「九州電力の思い」の実現に向けて、今後予想される経営環境の変化や電気事業の特性を踏まえ、“今、着手しないと手遅れになるおそれがある”課題への取り組みを着実に推進していくため、四半世紀ぶりに、「長期経営ビジョン」を策定しました。

また、このビジョンにおける経営の方向性に向かって、今、取り組むべきことを明確にするため、新たな「中期経営方針(2009～2011年度)」を策定しました。

### 長期経営ビジョンの概要

[ホームページ](#) 株主・投資家の皆さま → [経営方針](#)・[経営計画](#) → [長期経営ビジョン](#)

【事業活動を通じて生み出す価値】(イメージ図)



### 中期経営方針の概要

[ホームページ](#) 株主・投資家の皆さま → [経営方針](#)・[経営計画](#) → [中期経営方針の概要](#)

#### 基本的な考え方

##### (1) 経営姿勢

「ずっと先まで、明るくしたい。」をブランドメッセージとする「九州電力の思い」の実現に向け、大きな時代の変化に的確に対応し、CSRの観点に基づいた経営を推進することを通じ、当社の事業活動に関わる全ての方々の価値を持続的に生み出していく

##### (2) 対象期間の位置付け(2009～2011年度)

現状の厳しい経営環境への確に対応するとともに、「長期経営ビジョン」を踏まえ、中長期的な観点から“今、着手しないと手遅れになるおそれがある”課題への取り組みをスタートする期間

#### 事業領域の考え方

- 「環境にやさしいエネルギー事業」をコア事業として、積極的な展開を図る
  - ・「九州におけるエネルギー事業」：九州における責任あるエネルギー事業者として、エネルギー・地球環境問題に対する積極的な取り組みを推進
  - ・「海外におけるエネルギー事業」：保有する技術やノウハウを活かし、対象国・地域におけるエネルギーの安定供給や効率向上、地球規模でのCO<sub>2</sub>排出量削減に貢献
- 保有する有形無形の経営資源を活用し、社会的な意義の大きい「社会・生活サービス事業」を展開
- 事業の社会的意義やコア事業などとの相乗効果、リスク・収益性評価を踏まえた展開を図る

#### 重点的な取り組み

- (1) 将来を見すえた電力の安定供給への取組みと地球環境問題への対応
- (2) 快適性・環境性の両立した付加価値の高いサービスの提供
- (3) 九州やアジア、世界における持続可能な社会づくりへの貢献
- (4) 情勢変化に対応できる収支構造を目指した取組み
- (5) 次代のニーズに対応した働き方の改革や組織づくり

# 地球にやさしいエネルギーをいつまでも、しっかりと 将来を見すえた電力の安定供給への取組みと地球環境問題への対応

## エネルギーに関する長期的な見通し

世界的な人口の増加や発展途上国の経済成長に伴い、世界のエネルギー需要は長期的に増大していくことが予想されています。今、その大部分は石油や石炭などの化石燃料で賄われていますが、これらの資源には限りがあり、今後、エネルギー資源の供給面での制約は、ますます強まります。

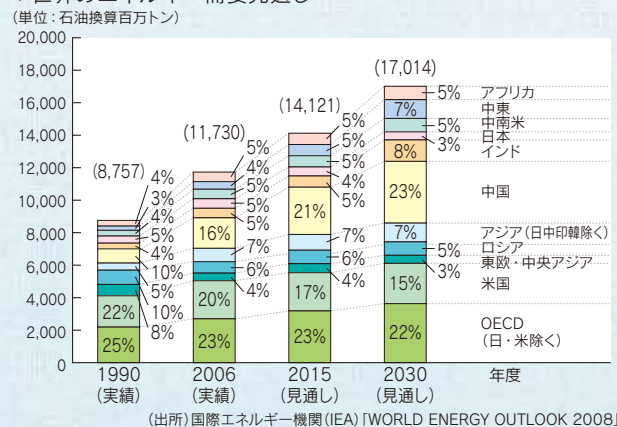
さらに、地球環境問題への対応として、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)等の温室効果ガスの排出削減に向けた取組みも、喫緊かつ持続的な課題となっています。

また、エネルギー需要構造の変化に目を向けると、九州で消費されるエネルギー量のうち、電力の占める割合は2005年時点で約25%（うち当社は約20%）であり、上昇傾向で推移しています。

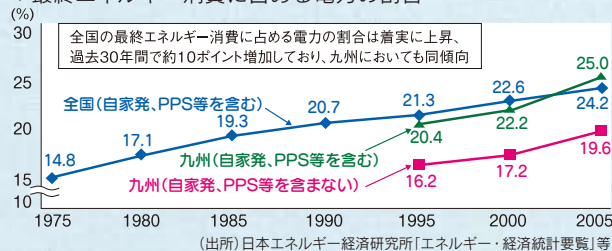
今後も、電気の利便性、経済性などから、電化の進展が予想され、ライフラインである電力を安定して皆さまにお届けするという九州電力の基本的使命は、今後ますます重要になると考えています。

このような状況の中でも、当社は環境にやさしいエネルギーを安定的にお届けしていくため、供給の安定性、環境特性、経済性に優れた原子力を中核とした電源開発を推進するとともに、太陽光や風力などの再生可能エネルギーの積極的な導入や、火力発電の高効率化を推進することとしています。また、九州の持続可能な社会づくりに積極的に貢献していくためには、その基盤となるエネルギーについて、お客さまや地域社会と協力し、非化石エネルギーへの転換や省エネルギーの推進など、九州全体のエネルギー需給構造転換に向けた取組みが必要であると考えています。

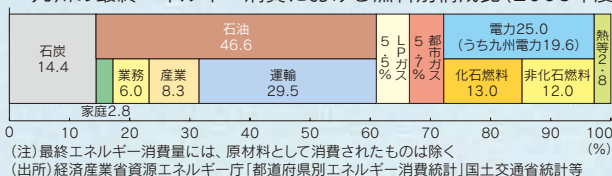
▼世界のエネルギー需要見通し



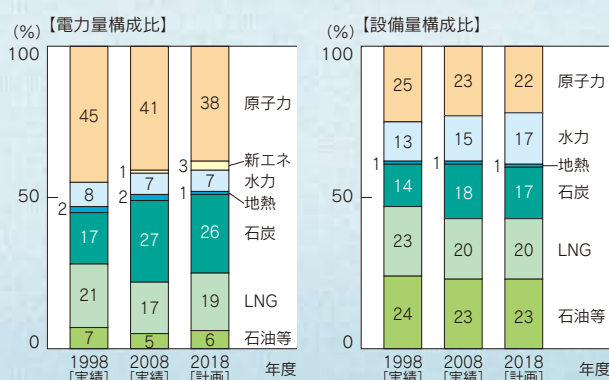
▼最終エネルギー消費に占める電力の割合



▼九州の最終エネルギー消費における燃料別構成比(2005年度)



▼電源多様化計画(他社受電分を含む)



## ■中核電源としての原子力発電の推進

原子力発電は、供給の安定性、環境特性、経済性の面で優れていることから、電源の中核と位置づけています。また、国の「エネルギー基本計画」(2007年3月改定)においても、「原子力発電については、安全確保を大前提に、今後とも基幹電源と位置づけ推進する」としています。

このため、運転中の原子力発電所については、安全・安定運転を徹底するとともに、<sup>せんだい</sup>川内原子力発電所3号機の増設やプルサーマルへの取組みを着実に実施していきます。また、使用済燃料貯蔵施設の増強や中間貯蔵施設の調査、検討にも取り組んでいきます。

### 川内原子力発電所3号機の増設に向けた取組み

当社では、将来にわたり二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)の排出を抑制しつつ、安定的に経済的な電気をお届けするため、川内原子力発電所3号機を増設する計画を進めています。3号機については、2003年10月より川内原子力発電所において実施してきた環境調査の結果、増設が可能であることを確認したことから、2009年1月、鹿児島県知事

#### ▼川内原子力発電所3号機完成予想図



並びに<sup>さつま せんだい</sup>薩摩川内市長に対し、環境調査結果を報告するとともに、増設に関する申入れを行いました。

増設計画を進めていくためには、地域の皆さま方のご理解とご協力をいただくことが何よりも重要であると考えており、2009年3月「川内原子力総合事務所」を薩摩川内市に設置し、地域に密着した理解活動を進めています。

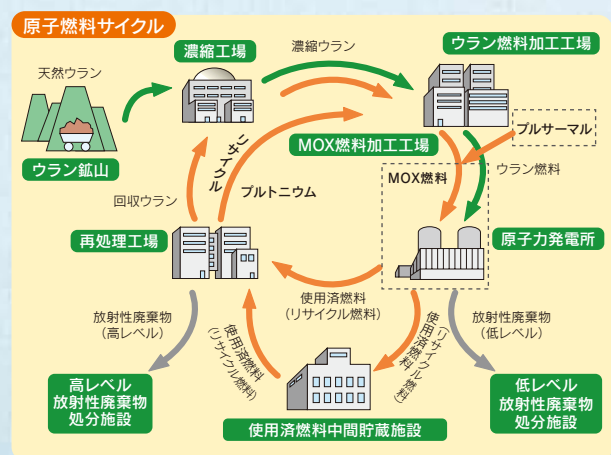
[ホームページ](#) 原子力情報→川内原子力発電所3号機増設関連  
→川内原子力発電所3号機増設計画のあらまし

### プルサーマルの着実な実施

資源の乏しいわが国において、将来的にもエネルギーを安定的に確保していくため、原子力発電所から出る使用済燃料を再処理し、有用な資源を回収して再び燃料として利用する「原子燃料サイクル」の確立が必要不可欠です。

その一環として、使用済燃料を再処理して回収されたプルトニウムを軽水炉で使用して発電する「プルサーマル」を、確実に実施していく必要があると考えています。

当社では、<sup>げんかい</sup>玄海原子力発電所3号機において、2009年8月下旬から開始予定の定期検査でMOX燃料を装荷する計画です。



[ホームページ](#) 原子力情報→プルサーマル計画

## 再生可能エネルギー導入拡大へ向けた取組み

当社では、風力・太陽光・水力・地熱などの再生可能エネルギーについても、積極的な開発、導入を進めています。ここでは、それらの取組みのうち、一部をご紹介します。

### ①長島ウインドヒル(株) 営業運転開始

2008年10月、グループ会社である長島ウインドヒル(株)の長島風力発電所が営業運転を開始しました。この発電所は、2005年10月に工事を開始し、3年がかりで建設を進めてきました。開発地点の鹿児島県の長島町は、県の北西部に位置し、東シナ海に面していることなどから、年間を通して安定した風況に恵まれ、風力発電に適した地点です。

長島風力発電所は、この長島町の間山部に、定格出力2,400kW、タワー高さ70m、風車直径92mの国内最大級の国産風車21基を備えた総出力50,400kWの九州最大の風力発電所です。年間の発電電力量は約1億kWhであり、年間約4万トンのCO<sub>2</sub>排出量の削減が期待されています。



長島ウインドヒル(株) (鹿児島県)



### ②全国初の地熱バイナリー発電

九州は地熱資源に恵まれており、国内最大規模の八丁原<sup>はちしようばる</sup>発電所(110,000kW)をはじめ、当社の総出力は約210,000kWと全国の地熱発電設備容量の約4割を占めています。2006年4月には、八丁原発電所構内において、従来の発電方式では利用できなかった低温の地熱エネルギーも活用できる八丁原バイナリー発電所(2,000kW)が全国で初めて営業運転を開始しました。2009年4月には、本バイナリー発電所と八丁原発電所が、「新エネ百選」に選定されています。

地熱発電は、他の再生可能エネルギーに比べ、年間を通じて安定した電気を供給できます。今後も引き続き、地熱資源の有望地点における現地状況など新たな開発に向けた調査・情報収集を行っていきます。



八丁原発電所 (大分県)

### ③<sup>みなと</sup>港発電所跡地へのメガソーラー設置

福岡県大牟田<sup>おおむた</sup>市の港発電所跡地に、出力3,000kWのメガソーラーの開発を進めており、2010年度の運転開始を予定しています。この発電所は、太陽光としては、九州最大規模であり、CO<sub>2</sub>排出抑制効果は、年間約1,300トンになる見込みです。

太陽光発電設備については、発電所跡地や全事業所等への設置に取り組めます。また、国が導入する「新たな買取制度」の導入を契機に、今後、太陽光発電の普及が急速に進むことが期待されています。このため、太陽光が電力系統に大量連系された場合の技術的な課題(電圧上昇や周波数変動など)に対しても、適切な対策を実施していきます。



メガソーラーのイメージ



#### ④ バイオマス発電への取組み

グループ会社のみやざきバイオマスリサイクル(株)は、鶏ふんを燃料とした国内最大級のバイオマス発電所で、年間約13万トンの鶏ふんを受け入れて燃焼し、11,350kWの発電を行うほか、焼却灰は肥料の原料として有効利用しています。2009年4月には、同社の地域に即した事業活動が評価され、「新工ネ百選」に選定されています。また、福岡市と当社で設立した(株)福岡クリーンエナジーは、一般ごみを燃焼し、ごみ発電(29,200kW)を行っており、みやざきバイオマスリサイクル(株)と同様、資源循環型社会に貢献しています。



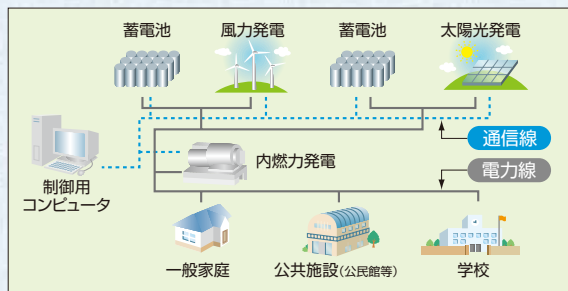
みやざきバイオマスリサイクル(株)(宮崎県)

#### ⑤ 離島マイクログリッドシステムの実証研究

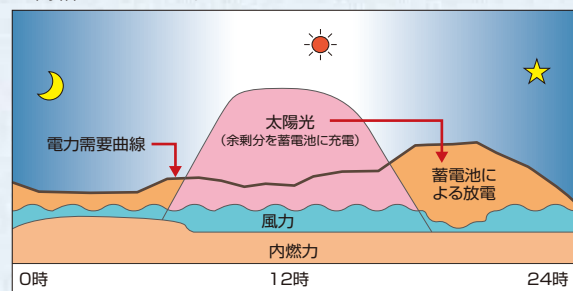
従来、本土と連系していない離島の電力は、内燃力発電(ディーゼル発電)を中心に賄っていますが、各離島の特性に応じた最適な電力供給体制について検討しており、その一環として、太陽光、小型風力等の再生可能エネルギーと蓄電池に従来の内燃力発電を加えた「マイクログリッドシステム」を構築します。

マイクログリッドシステムは、昼間に太陽光や風力で発電した電気を蓄電池に充電し、夜間に放電するもので、今後、技術の確立に向け、2009~2012年にかけて実証試験を行います。

##### ▼離島マイクログリッドシステムのイメージ



##### ▼需給バランスのイメージ



以上のような取組みのほか、河川の維持用水を放水するダムでの維持流量発電(水力)の開発などにより、再生可能エネルギーの導入を進めていきたいと考えています。

また、これらの取組みにより、RPS法による義務量達成にも努めていきます。

##### ▼再生可能エネルギー導入実績および目標

	電力量(億kWh)		設備量(万kW)	
	2007年度	2017年度	2007年度	2017年度
新エネルギー	12	28	79	224
風力	4	16	25	100
太陽光	2	6	30	100
バイオマスなど	6	6	24	24
水力(揚水除く)	45	58	185	186
地熱	14	16	21	21
合計	71	102	285	431

(注) 1. 地熱、バイオマスなどは現行計画の見通し。これらは、現在実施中の開発可能性調査等を踏まえ開発を行う。  
2. 数値は他社との余剰電力契約分を含む。

## ■ 火力発電の高効率化の推進

火力発電については、長期にわたり安定的に燃料を確保するため、LNG(液化天然ガス)、石炭など燃料の多様化を行うとともに、地球環境問題への対応及びエネルギー有効利用の観点から、発電効率の向上に努めています。

具体的には、2009年から2012年にかけて新大分発電所1号系列6台のガスタービンを順次高効率型へリプレースし、熱効率を3ポイント程度向上させるほか、環境面、燃料情勢などを考慮し、同発電所の3号系列第4軸として、最新鋭コンバインドサイクル(40万kW級)を2016年に開発することとしています。



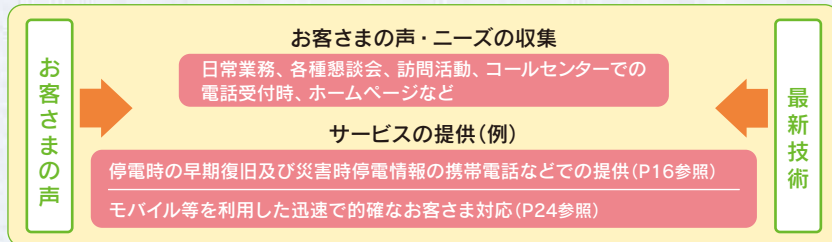
新大分発電所(LNG火力)

# お客さまに「なるほど」と実感していただくために ～快適性・環境性の両立した付加価値の高いサービスの提供～

## お客さまとの双方向コミュニケーションの充実

お客さま懇談会や訪問活動などあらゆる機会を通して、お客さまの声やニーズの収集に努め、ITなどの最新技術を活用し、お客さまに最適なサービスをお届けします。

▼最適なサービスの展開



### 九電アドバイザー制度

九州各県の社外有識者の方々に「九電アドバイザー」を委嘱し、経営活動全般に対するご意見・ご要望を、社長、副社長など経営幹部や支店長が直接お伺いし、経営活動の参考にしています。

### お客さま懇談会

各事業所で、地域のオピニオンリーダーの方々など、お客さまとの懇談会を開催し、ご意見等を事業活動へ反映させています。

### 対話訪問活動

10月の「お客さま ありがとうございます」キャンペーン期間等の様々な機会を捉えて、地域のオピニオンリーダーの方々など、お客さまへの対話訪問活動を行っています。

### お客さま対応時の「一声運動」

より多くのお客さまの声を収集するため、コールセンターでの電話対応時や業務中にお客さまとお話する機会に、他にもご用件がないかをお伺いする「一声運動」を推進しています。

▼お客さまの声をもとに改善を行った事例

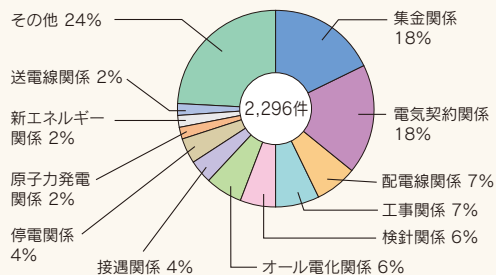
項目	お客さまの声	当社の対応等
検針関係	昨今、環境問題が話題となっているが、使用した電力量によって発生する二酸化炭素(CO <sub>2</sub> )排出量等の情報を検針票へ記載したらどうか。	2008年10月分から検針票裏面に電気のご使用量をもとにしたCO <sub>2</sub> 排出量の計算方法を掲載。 (お客さまのCO <sub>2</sub> 排出量(kg) = 電気ご使用量(kWh) × 0.387*) (*当社2007年度実績に基づく係数)
集金関係	電気料金の口座振替払いを希望して口座振替申込書を送付してもらったが、その後、クレジットカード払いを希望すると、別途専用の申込書が必要となり手続きに手間取った。申込書を統一できないか。	口座振替申込書とクレジットカード払い申込書は、それぞれ異なる申込書であったため、どちらの支払方法でも使用できるよう申込書を統一。
電気契約関係	九州電力及び関係会社等の社員を装った詐欺事件が発生している。被害者を出さないために、PRが必要ではないか。	注意喚起を行うテレビCMの放映や当社提供番組でのテロップ放映を実施。また、当社検針票裏面を活用した注意喚起のPR(2009年3月)や、当社ホームページへの掲載、九州電気保安協会の定期調査前のチラシ配布を実施。

### レインボーシステム

全社員が個別のパソコンからお客さまの声を入力・検索することができる「レインボーシステム」を構築し、日常業務や各種懇談会、訪問活動等によりお客さまからいただいた声を共有するとともに、当社の業務計画への反映や業務改善事例等の集約結果を定期的に社内へ水平展開するなど、お客さま満足の向上に努めています。

▼レインボーシステム入力件数  
(2008年度実績)

■分類別お客さまの声



# 「省エネ快適ライフ」のご提案

ホームページ キレイ・ライフ⇒省エネ快適ライフを送ろう!

## 「省エネ快適ライフ」

地球環境問題、資源エネルギー問題への関心や危機意識の急速な高まりを踏まえ、お客さまにムリなくムダなく電気を上手に使っていただき(省エネルギー)、快適で環境にやさしい生活をお送りいただく「省エネ快適ライフ」について、お客さまと共に考え、共に取り組んでいきます。

### 具体的取組み

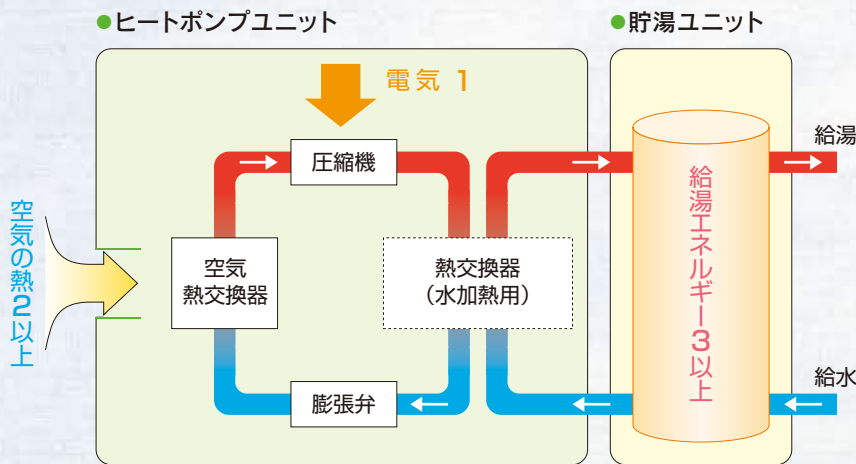
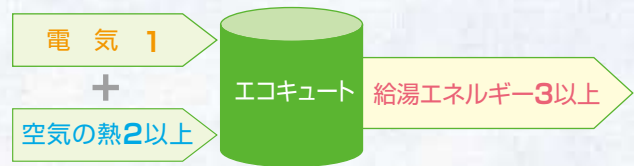
- ・お客さまからの省エネアイデア募集
- ・省エネルギーの積極的PR
- ・省エネルギー効果の高いエコキュートを中心としたオール電化の普及促進

### 省エネルギー目標

2009年度 9万トン-CO<sub>2</sub>/年

## 地球にやさしい高効率電気給湯器「エコキュート」

エコキュートは、自然にある空気の熱を有効に利用するヒートポンプ給湯器であり、使用する電気エネルギーの3倍以上の熱エネルギーを得ることのできる高効率機器です。



## 省エネルギーに関する情報提供

お客さまにムリなく省エネに取り組んでいただけるよう、省エネに関する情報をわかりやすく紹介したパンフレットを配布するとともに、ホームページやテレビCMなどでも積極的に省エネのPRを行っています。また、各営業所に配置しています「ホームアドバイザー」もお客さまの電気の上手な使い方などを紹介する講座を開いています。



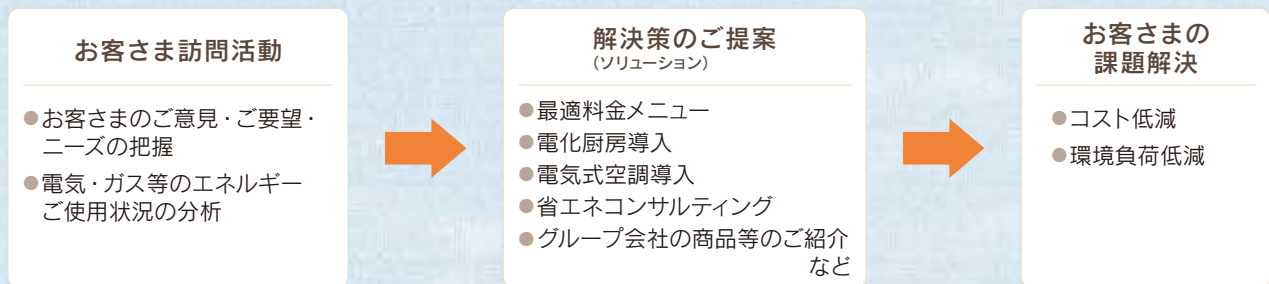
省エネ関連情報パンフレット

## 法人のお客さまへの最適なサービス

### トータルソリューション営業(提案型営業)の展開

法人のお客さまの抱える様々な課題・ニーズに対してきめ細やかな対応を行うため、営業所にアカウントマネージャーを配置し、電気のご使用状況に応じた料金メニューの提案や電化厨房・電気式空調・省エネコンサルティングなど、当社及びグループ会社の経営資源を活用したエネルギー全般に関するご要望・ご相談にお応えします。

ホームページ 法人のお客さま→各種サービス



## 電化で実現!理想の厨房。

今、厨房で感じている不満や問題を、  
電化厨房で解決します!

厨房のこんな“ご要望”ございませんか?

- 厨房内を涼しくしたい!
- 掃除の労力を軽減したい!
- 食中毒の発生リスクを抑えたい!

### Cool & Clean

火を使わないのでいつも清潔で  
安全性が高く快適な厨房環境を実現します。



- 誰が調理しても品質を均一にしたい!
- 火力を上げたい!
- すみやかに料理を提供したい!

### Control & Productivity

作業効率、熱効率が高く  
操作性にも優れています。



- 省エネを実現したい!
- CO<sub>2</sub>を削減したい!
- 立体配置で省スペース化をしたい!

### Eco & Compact

燃焼がないから環境にやさしく  
立体レイアウトで省スペース化が可能です。



見て、触れて、実感できる!

電化厨房体験コーナー **eキッチン** を体験してみませんか!

無料!

※詳しくは、最寄の営業所、または、Webで!

九州電力 eキッチン

検索

[http://www.kyuden.co.jp/service\\_kitchen\\_index](http://www.kyuden.co.jp/service_kitchen_index)

## 「お客さま ありがとうございます」キャンペーン

当社は、お客さまの日頃のご愛顧に対する感謝の気持ちを込め、10月20日から31日を中心に『「お客さま ありがとうございます」キャンペーン』として、地域のお客さまとの信頼の絆を深める諸活動を全社で展開しています。

経営幹部と社員が一体となった感謝活動をはじめ、お客さまへの訪問活動や懇談会、文化財や高齢お客さまのご自宅等での配線診断サービス等の活動を九州各地で行っています。



**ゲートボール大会**  
けんかい  
(玄海原子力発電所)



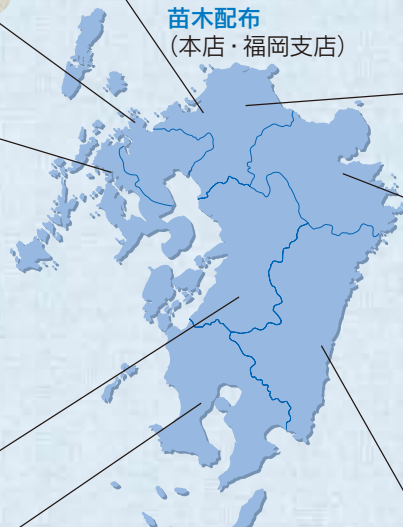
**苗木配布**  
(本店・福岡支店)



**芋ほり会**  
いづか  
(飯塚電力所)



**YOSAKOI給水ボランティア**  
さきほ  
(佐世保営業所)



**大分城址清掃**  
(大分支店)



**青井阿蘇神社樹木伐採**  
ひとし  
(人吉営業所)



**ゆかり学園訪問**  
(鹿児島営業所)



**事業所オープンデー**  
(宮崎電力所)

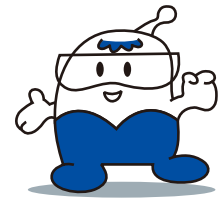
### グループ会社の取組み

#### 九電工「さわやかコミュニティ旬間」

当旬間は1969年に開始した「サービス強調月間」から通算すると、2008年度で40回目。「このまちにあふれる笑顔のお手伝い」を合言葉に地域に根ざす企業として、地域の重要文化財や福祉施設などで、設備点検作業や清掃活動を展開しています。



当社は、「九州電力の思い」のもと、長期的な視点で社会的に有意義な事業活動を適切に遂行していくため、経営上の重要な課題としてコーポレート・ガバナンスの強化に努めています。

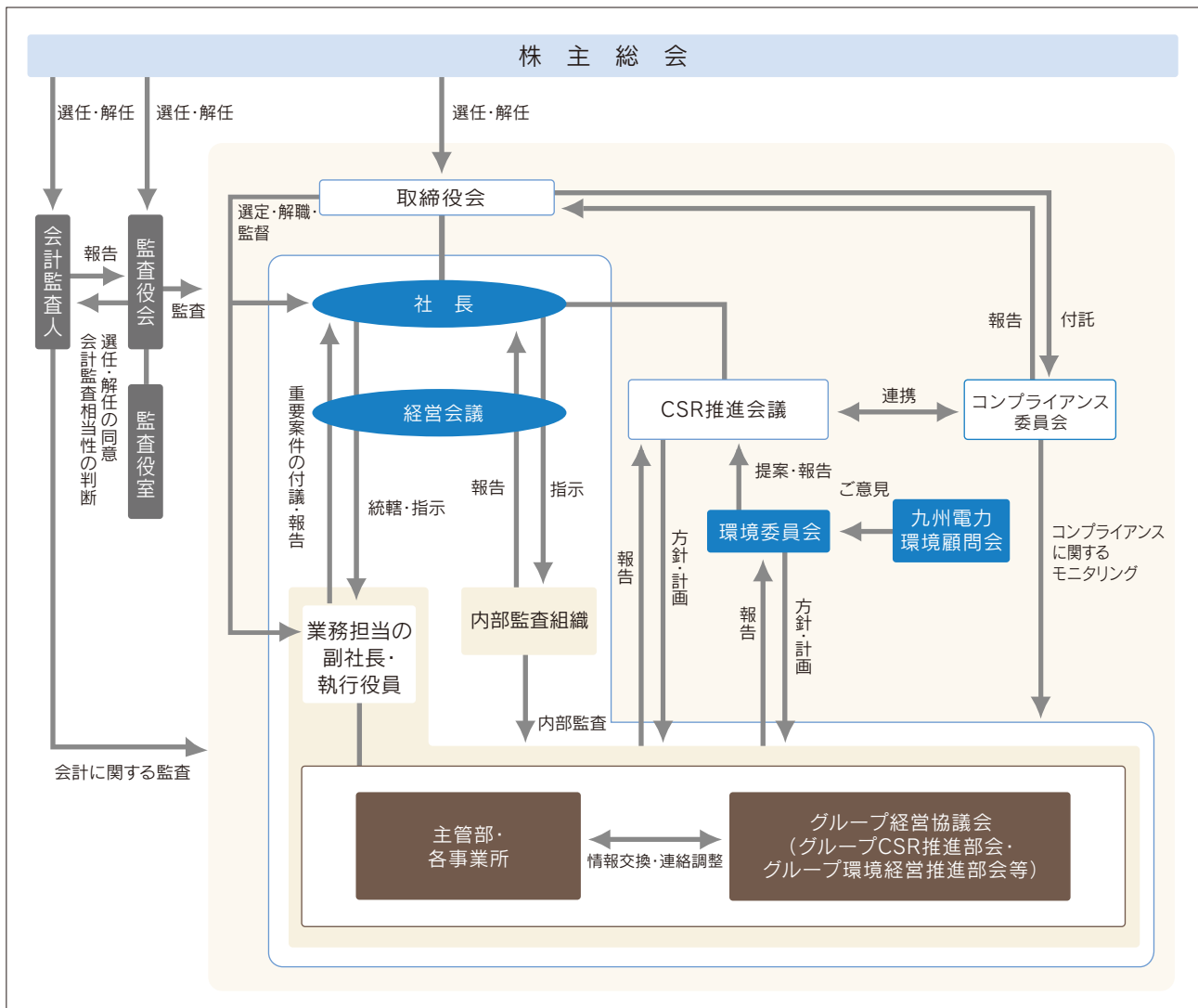


## コーポレート・ガバナンスの基本的な仕組み

取締役会と監査役会を設置するガバナンスを基本として、取締役と執行役員による監督と執行の役割の明確化や、コンプライアンス経営の徹底などに取り組むとともに、会社業務の適正を確保するため

の体制の整備に係る基本方針(内部統制の整備に係る基本方針)を定め、継続的な体制の充実に努めています。

▼コーポレート・ガバナンスの体系図



CSR報告書をコミュニケーションツールとして、様々なステークホルダーの皆さまの「声」をお聴かせいただき、その声を経営や業務運営に的確に反映させるCSRマネジメントサイクルを構築しています。



## CSR推進会議

CSRマネジメントの推進体制として、CSR担当役員を任命するとともに、社長を委員長とするCSR推進会議を設置し、CSR行動計画の策定やCSR報告書に関する審議などを行い、CSRへの取組みの更なる充実を図っています。

## グループCSR推進部会

九州電力グループ全体でのCSRへの取組推進のため、グループCSR推進部会を設置し、行動計画の周知やそれに基づくPDCAの確実な実施を図っています。

## 九州電力グループCSR行動計画

2008年度CSR行動計画の実施状況について自己評価を行うとともに、CSR報告書アンケートにより収集したステークホルダーの評価を総合的に勘案し、2009年度CSR行動計画を策定しました。

### CSR行動計画の主な内容

#### コンプライアンス経営の推進

法令遵守の徹底や企業倫理に則った公正な事業活動  
個人情報保護など情報セキュリティ体制の強化

#### 人権の尊重と働きやすい労働環境の整備

人権の尊重  
男女共同参画の推進  
高齢者や障がい者等の雇用促進  
従業員の意欲・能力向上

#### 情報公開の一層の推進

情報公開推進体制等の整備・充実  
株主・投資家ニーズを踏まえたIR活動の推進  
原子力関係情報の適宜・適切な発信

#### 安全第一主義の徹底

設備の安全確保  
商品・サービスの安全性向上、電気安全に対する知識の普及  
安全と健康に留意した職場環境と作業安全の確保

#### 環境経営の推進

地球環境問題への取組み  
循環型社会形成への取組み  
地域環境との共生  
社会との協調  
環境管理の推進

#### 地域・社会との共生

地域・社会の一員としての効果的な共生活動の展開

※具体的な計画についてはCSR報告書2009をご参照ください。



# コンプライアンス経営の推進



当社は、お客さまや地域の皆さまに安心していただけるよう、法令遵守はもとより、企業倫理に則った誠実かつ公正な事業活動を推進します。

## ■コンプライアンス向上への取組み

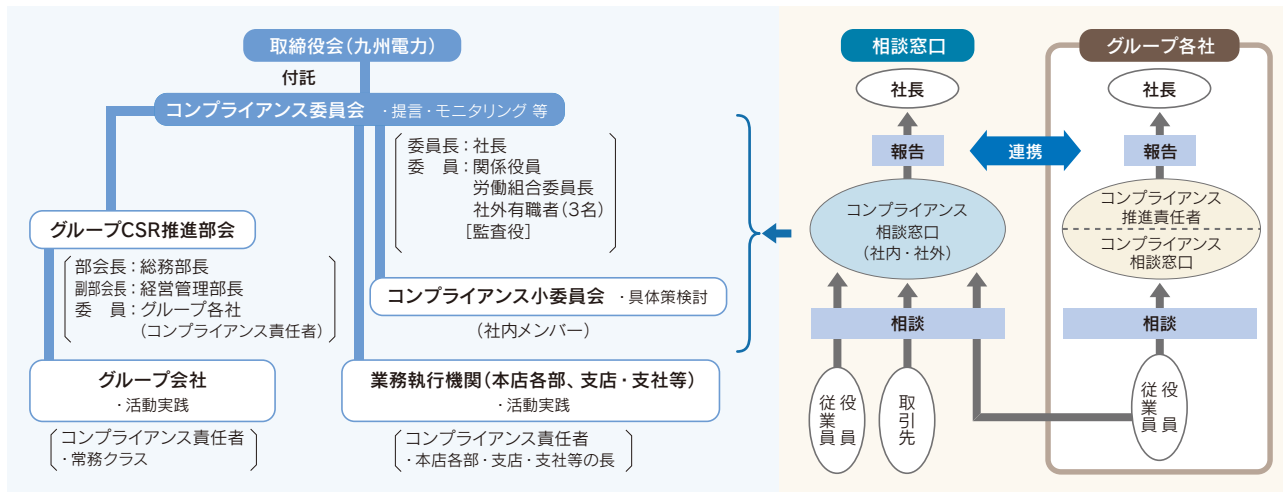
### コンプライアンス経営の推進体制

当社では、取締役会のもとにコンプライアンス委員会を設置(2002年10月)しています。また、コンプライアンスに関する活動を実践する業務執行機関(本店各部、支店・支社等)の長を「コンプライアンス責任者」とし、全社でコンプライアンス意識の向上に取り組んでいます。

さらに、内部通報制度として「コンプライアンス相談窓口」を社内及び社外に設置しています。

九州電力グループとしてのコンプライアンス推進体制については、「グループCSR推進部会」を設置し、行動計画の周知や情報提供など、グループ一体となった取組みを推進しています。

#### ▼コンプライアンス経営の推進体制



#### Topics

### パンフレット表示内容に対する公正取引委員会からの排除命令

2008年10月、当社の「オール電化総合パンフレット」の表示内容について、不当景品類及び不当表示防止法に抵触するとして、公正取引委員会から「排除命令」を受けました。

今回の指摘は、ガス併用住宅と比較して、光熱費が「1年間で約10万円もおトク」、「30年間で約300万円おトク」、さらにオール電化住宅ローン利用で「30年間で約350万円も節約」と表示したことについて、初期費用やその間の買替費用も考慮したものでなければ、お客さまに誤解を与えるとの内容でした。

当該パンフレットの指摘を受けた部分につきましては、ただちに回収するとともに、表示内容の改善を実施しました。

今回の排除命令を機に、社内の広告類の審査体制を一層強化し、二度とお客さまに誤解を与えることがないように、再発防止の徹底と適正な広告表示に努めてまいります。

#### 【再発防止策】

- コンプライアンス意識の再徹底
- 現行パンフレット・広告等の総点検及びリーガルチェック体制の構築
- 社内教育の実施(グループ会社含む)



# 情報公開の一層の推進

当社は、事業活動の透明性を確保し、お客さまのご理解と信頼を得るため、的確かつ迅速に情報を公開します。



## 非常災害時・緊急時における情報提供の更なる充実

台風や地震等の非常災害時や緊急時に、迅速に停電情報等を把握し、お客さまからのお問い合わせに対応するとともに、報道機関やホームページなどを通じて広く情報提供を行っています。

また、2008年1月に開始した停電情報携帯メールサービスをより多くのお客さまにご利用いただけるよう、登録の拡大を図っています。



停電情報画面イメージ

**九州電力 携帯メールサービス**  
携帯への停電情報・メールマガジンを配信!

メール文(例)  
市区町村停電情報  
〇〇市  
200x年xx月xx日xx時xx分現在  
■停電戸数  
5,6千戸  
■停電率  
5.7%  
■復旧見込み  
x月x日夕方  
■〇〇市の停電状況  
<http://kyuden.jp/xxxxx>

会員登録は  
下記ホームページから行えます。

- 携帯電話版ホームページ  
<http://kyuden.jp>
- パソコン版ホームページ  
<http://www.kyuden.co.jp>

※原則1時間に1回九州全域及び市区町村の停電情報を配信します。  
(ホームページ掲載の情報は更新がない場合は配信しません。)

## 原子力関係情報の適宜・適切な発信

### 原子力発電をご理解いただくための活動

原子力をはじめとするエネルギー問題等についてご理解いただくために、パンフレットの配布やエネルギー講演会、次世代層を対象とした科学実験講座・出前授業の開催、原子力発電所見学会などを実施しています。

また、様々な機会を捉えて、地域オピニオンリーダーへの対話訪問活動などの双方向コミュニケーションを図っています。

その他、当社提供番組等でのCM放送や新聞広告、インターネットを活用した広報活動などを積極的に実施しています。

Topics

### せんだい 川内原子力発電所3号機 増設に係る説明会の開催

当社は、川内原子力発電所3号機増設計画に係る「環境影響評価準備書説明会」及び「地質・気象調査説明会」を2009年1月に薩摩川内市、いちき串木野市において開催しました。

説明会では、エネルギーセキュリティの確保及び地球温暖化対策などの観点からの増設の必要性、事業計画及び環境影響評価の概要等について説明を行うとともに、参加者からのご質問に対してお答えしました。

今後も引き続き、あらゆる機会を通じて地域の皆さま方の

ご理解とご協力をいただくための活動を進めていきます。

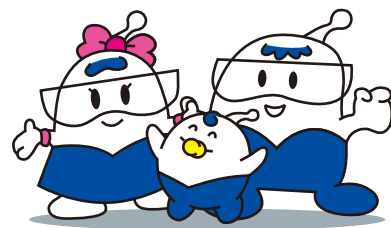


用語集

環境影響評価

# 環境経営の推進

持続可能な社会の構築に貢献し続けていくために、  
事業活動と環境を両立する「環境経営」を九州電力  
グループ一体となって推進しています。



## 地球環境問題への取り組み

### 温室効果ガスの排出抑制

#### 目標

2008～2012年度平均の使用端CO<sub>2</sub>排出原  
単位※を1990年度実績比で20%程度低減  
(0.348kg-CO<sub>2</sub>/kWh程度にまで低減)

※販売電力量1kWhあたりのCO<sub>2</sub>排出量

### 低炭素社会の実現に向けた取り組み

#### 電気の供給面

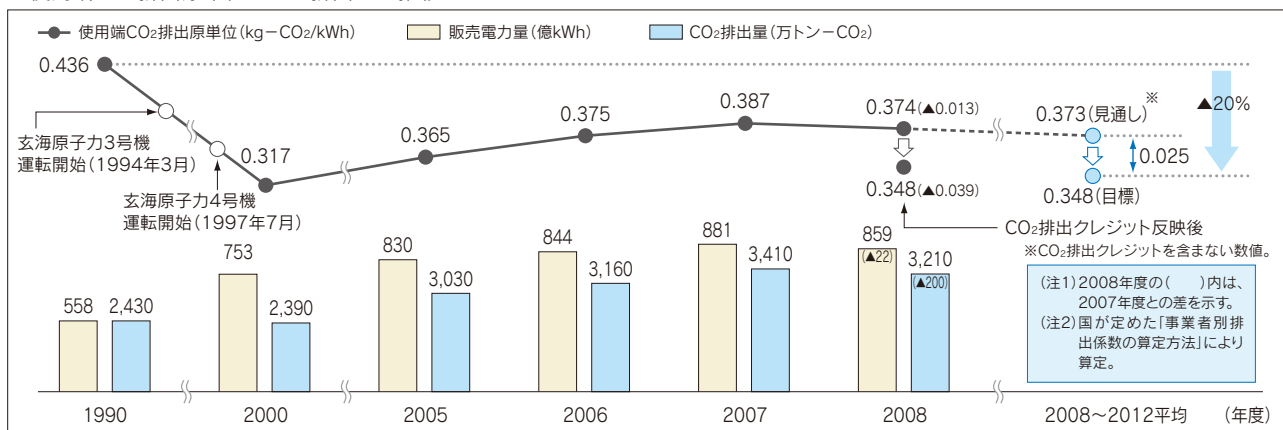
- 発電の一層の  
低炭素化・高効率化  
(原子力の活用、  
再生可能エネルギー  
の導入拡大等)

#### 電気の使用面

- 高効率機器の普及・  
電化による省エネ  
(ヒートポンプ)  
電気自動車等)
- 省エネ情報の提供

低炭素社会の実現

### ▼使用端CO<sub>2</sub>排出原単位とCO<sub>2</sub>排出量の推移



### 電気自動車の導入推進

～2020年度までに、社用車へ

電気自動車を1,000台程度導入します～

2020年度までに社用車として電気自動車(プラグインハイブリッド車を含む)を1,000台程度導入することとしており、これにより、年間約1,400トン※のCO<sub>2</sub>の排出が抑制されると試算しています。

また、性能の高いリチウムイオン電池の開発や、急速充電器などのインフラの設備についての検討も進めています。

※: 当社社用車に電気自動車を導入した場合の試算値。  
CO<sub>2</sub>排出抑制量の試算には、2007年度当社CO<sub>2</sub>排出原単位(全電源平均)を使用。

#### 電気自動車の特徴

- CO<sub>2</sub>排出量が少ない※(ガソリン車の約7割削減)
- 総合効率※が高い
- 燃料費が安い(ガソリン車の1/4～1/10程度)
- 都市環境の改善(排気ガスが少ない、騒音が小さい等)

出典: 電気事業における環境行動計画

※: CO<sub>2</sub>排出量、総合効率はエネルギーの生産・供給・消費までの全体を通じた評価



電気自動車と急速充電器

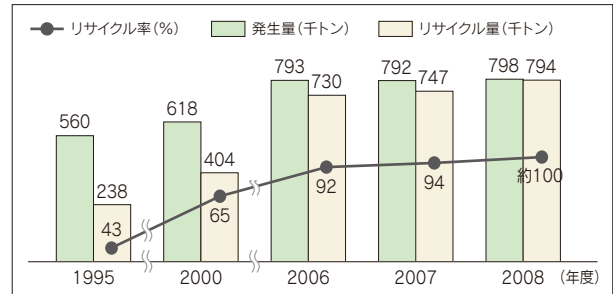
## ■ 循環型社会形成への取組み

### 廃棄物のゼロエミッションへの挑戦

～産業廃棄物はほぼ100%リサイクルしています～

当社が排出する産業廃棄物には、火力発電所の運転に伴う副産物(石炭灰、石こう)や工事に伴う撤去資材などがあります。これらの産業廃棄物については、適切な管理・処理を行うとともに、発生量の抑制(Reduce:リデュース)、再使用(Reuse:リユース)、再生利用(Recycle:リサイクル)の3Rを実践しています。

▼産業廃棄物発生量とリサイクル率



## ■ 社会との協調

### 九州ふるさとの森づくり

～これまでの植樹本数は約90万本になりました～

創立50周年を記念して、2001年度から10年間で100万本(10万本/年間)の植樹を地域の皆さまと一緒にやって行く「九州ふるさとの森づくり」を九州の各地で展開しています。

2008年度は、48か所で森づくりを実施し、約11万本を植樹しました。



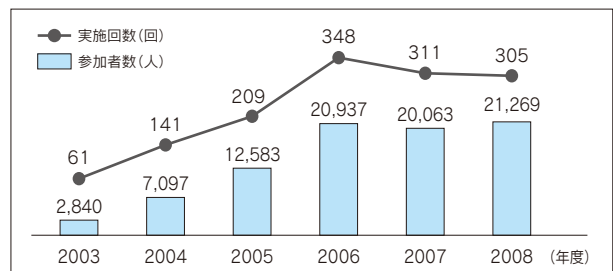
▲雲仙・普賢の森植林ボランティア(長崎県島原市)

### エコ・マザー活動

～これまでに、約8万5千人が参加しました～

子どもたちへの環境教育支援と、ご家庭における環境教育の担い手である保護者の皆さまへの環境情報提供を目的として、2003年度から「エコ・マザー活動」を展開しています。

▼エコ・マザー活動実績



ダイヤランド保育園  
エコ・マザー活動  
(長崎県長崎市)

エコ・マザー活動  
ツール

### 「エコ・マザー活動」とは

九州各地の保育園などで、環境問題への「気づき」となる環境紙芝居の読み聞かせ等を行い、環境に配慮することの大切さを、小さなお子さまにも分かりやすく語りかける活動です。

当社とお客さまとの「パイプ役」となる「エコ・マザー」には、自身もお子さまをお持ちのお母さま方になっていただいています。

また、この活動を通して、保護者の方々から、当社の環境活動に対するご意見・ご要望もお伺いしています。

# 人権の尊重と働きやすい労働環境の整備

企業価値向上の源泉は「人材」であることを基本に、一人ひとりが働きがい・生きがいをもって仕事ができる労働環境の整備に取り組んでいます。



## 男女共同参画の推進

### 仕事と家庭の両立支援

ワーク・ライフ・バランスの充実にに向けた取組みのひとつとして、従業員が仕事と家庭を両立させながら継続的に就業できるような環境づくりを推進しています。

2008年度は、育児休職・短縮勤務期間の弾力化・延長や、育児・介護短縮勤務者に対するフレックスタイム勤務の適用、育児・介護による退職者に対する就業支援等を始めました。引き続き、子育てや介護などに、より柔軟に対応するための制度の充実策を検討していきます。

### 女性活躍推進に向けた取組み

従業員一人ひとりが性別や年齢などに関わりなく、働きがい・生きがいをもって仕事ができる職場、活力あふれる企業風土の形成を目指すという観点から、「女性のキャリア形成支援」、「仕事と家庭の両立支援」、そしてこれらを支える「意識改革、風土の醸成」について、総合的な取組みを展開しています。

2008年度には、女性活躍推進のための管理職セミナーや女性管理職懇談会・女性社員懇談会などの女性社員同士の対話活動、そして社内イント

ラネットを利用した情報発信・双方向コミュニケーションの場の整備等を行いました。

Topics

### 全社女性社員懇談会の開催

ネットワークづくり・ステップアップに向けた情報交換を目的に、2009年2月、本店で全社女性社員の懇談会を開催しました。

懇談会では、女性管理職4名によるパネル討論を行い、各パネリストが自身の経験に基づき、仕事を続けていくために大切なことについて話した他、社外講師による講演なども実施しました。

参加者からは、「会社生活を送る上での指標が見えた」「自分も頑張らないといけないと感じた」などの声が聞かれました。



### 「ファミリーデー」の開催

Topics



社員を支える家族への感謝と、より良い職場風土の醸成のため、本店システム運用部で、「ファミリーデー」を開催しました。

当日は、32組の家族(69人)が参加し、両親が働いている普段見ることができないオフィスや中央給電指令所などを見学しました。また、九州電力の作業用の服を着用して記念撮影を行うなど、様々なイベントが催され、参加した家族からは、「お父さんってすごいね…」「楽しかった、また来たい」などの声があり、社員を含め参加した家族にとっても、楽しい一日になりました。

システム運用部では、「家族からの支えは大きいので、家族のきずなを深めることで、よい職場風土形成に繋がっていく」ことから、来年度以降も家族に両親の仕事を理解してもらえる行事を展開していきます。

# 安全第一主義の徹底



すべての事業活動の基本として、設備対策はもとより、公衆安全や作業者の安全確保を最優先する安全第一主義の徹底を図ります。

## 原子力発電の安全確保

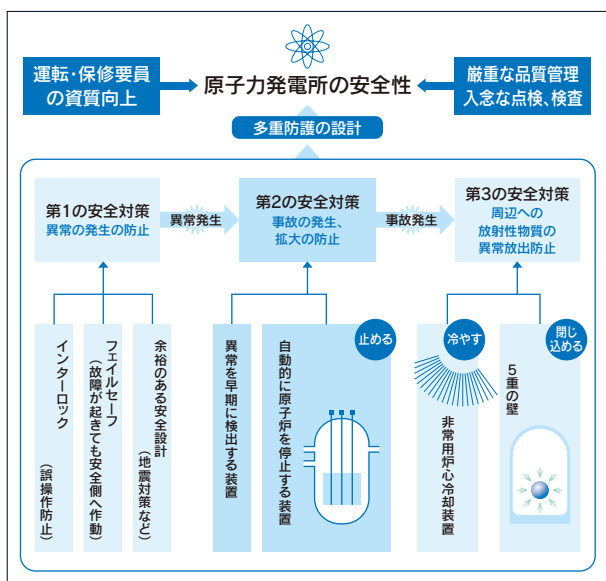
原子力発電所は、設計、建設から運転の段階に至るまで、法令に基づき、国による安全審査、工事計画認可、使用前検査、定期検査を受けるなど、安全を確保するための厳格な規制が行われています。

また、自主的な保安活動の観点から、安全確保のための仕組みを構築するとともに、より一層の安全性・信頼性の向上を目的として、社長をトップとする品質マネジメントシステムを確立して、品質保証活動に万全を期し、原子力発電所の安全・安定運転に努めています。

さらに、地震をはじめ安全に関する最新の国内外の知見を反映するとともに、安全を最優先とする価値観を組織内に浸透させる「安全文化」を醸成することにより、原子力発電所の安全確保に万全を期しています。

### 原子力発電所の安全を守るための仕組み

多重防護の考え方に立った安全対策を講じ、放射性物質の異常な放出を伴う原子力発電所の事故を確実に防止します。



### 原子力発電設備の維持管理

#### ●保安管理ルールに従った点検・補修

原子力発電所の安全性、信頼性を確保するため、法令や民間規格の要求事項を適切に反映した設備の保守管理活動を着実にを行い、設備や機器が所定の機能を発揮しうる状態にあるように維持管理を行っています。

また、2009年度からの新検査制度の実運用開始に伴い、新たな保全技術を導入するなど「保全プログラム」を充実させるとともに、保全の継続的な改善を図ることにより、原子力発電所の安全性・信頼性をより一層向上させていきます。



### 原子力発電所周辺の環境放射線管理

原子力発電所周辺では、放射線量を連続して監視・測定し、当社のホームページでリアルタイムにデータを更新しています。また、定期的に土、海水、農作物、海産物などの環境試料に含まれる放射能を測定しており、現在まで、原子力発電所の運転による環境への影響は認められていません。

原子力発電所周辺の人が受ける放射線量は、年間0.001ミリシーベルト未満で、法定線量限度の年間1ミリシーベルトを大きく下回っています。

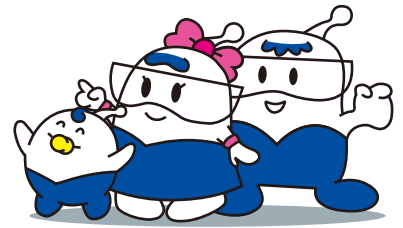


用語集  
ミリシーベルト  
品質マネジメントシステム

保全プログラム

# 地域・社会との共生

快適で豊かな地域・社会の実現と、その持続的な発展を目指し、良き企業市民として、地域・社会の皆さまとの協働による共生活動を推進します。



■ E-KIDSプロジェクト「音楽の出前授業」(福岡支店)  
地球(Earth)、エコロジー(Ecology)、エネルギー(Energy)を考える次世代向けの取組み「E-KIDSプロジェクト」を行っています。2008年度は、ロンドン交響楽団が福岡市内の小学校を訪問し、「音楽の出前授業」を行いました。

## ■次世代層の育成の取組み

各支店での作文募集や絵画コンクールなどの地域に密着した独自の文化活動や、当社社員が学校を訪問し、電気を作る仕組みや省エネ等の授業を行う「出前授業」などを通じて、次世代層の育成に向けた活動に取り組んでいます。



▲わたしの絵コンクール(鹿児島支店)



▲出前授業(相浦発電所)

## 魅力ある地域づくりへの取組み

### ■クラシックコンサートの開催

九州における音楽文化の普及のため、九州唯一のプロオーケストラである九州交響楽団の活動を支援するとともに、九州の皆さまにプロのオーケストラに触れる機会を提供するため、同楽団による九電ふれあいコンサートを開催しています。



ふれあいコンサート(北九州支店)

### ■地域のスポーツ大会への支援

地域におけるスポーツ活動の活性化及びレベルの向上を図り、明るく健康的な地域社会の形成を目指して、子どもからお年寄りの方まで幅広い層を対象とした地域のスポーツ大会を支援しています。



九州電力杯少年サッカー大会(宮崎支店)

### ■地域のまつりへの参加

地域文化保存の一環として、また、地域の皆さまとの絆を深めるため、各事業所やグループ会社の社員が地域のまつりへの参加・運営を行っています。



まつりすいけん  
松浦水軍まつり(松浦発電所)

### ■まちづくりシンポジウムin玉名(熊本支店)

熊本支店では、2011年春の九州新幹線鹿児島ルート<sup>たまな</sup>の全線開通により、「新玉名駅」の開業を迎える玉名市において、「まちづくりシンポジウム」を開催しました。当シンポジウムは、定住人口増加に向けた取組みの必要性を考えるきっかけづくりとして開催され、地域住民や自治体関係者等450名の方にご参加いただきました。



### ■「第25回九州・中国地区 伝統的工芸品まつり」

2008年12月に九州国立博物館で開催された「第25回九州・中国地区伝統的工芸品まつり」に対し、協賛及び協力を行いました。当社の「若手工芸家国内外派遣研修制度」を修了した研修生の作品の展示を行うとともに、記念式典においては、2007年度研修生の成果発表を行いました。



## 事業活動を通じた取組み

### 電気の利便性を生かした農業技術の開発

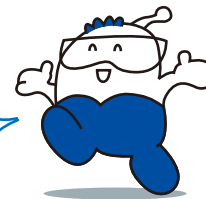
総合研究所では、生物資源研究センターを核として、九州地域の農業振興を支援するため、農業分野へのヒートポンプ適用、農産物の鮮度保持技術、養液栽培等の研究に取り組んでいます。

養液栽培システムによるイチゴ栽培状況▶



# 事業概要

九州電力グループは、いつの時代においても、お客さまに電力・エネルギーをしっかりと届けるとともに、社会・生活の質を高めるサービスを提供することを通じ、快適で環境にやさしい持続可能な社会の創造に貢献します。



## 電気事業

電気事業においては、安全を最優先に、質の高い電気を安定的かつ効果的にお客さまにお届けし続けることが私たちの基本的使命であり、最大の社会的責任と認識しています。そのため、電力需要の動向に的確に対応し、効率的な設備形成を図るとともに、停電減少に向けた取組みや設備運用・管理の高度化、大規模災害時における早期停電復旧に向けた取組みなどを通して、これまで高めてきた供給信頼度水準及びユニバーサルサービスを引き続き維持していきます。

### 供給信頼度維持への取組み

#### ● 停電減少に向けた取組み

お客さまに安定した質の高い電気をお届けし、安心してお使いいただくために、日頃から設備の点検・補修、及び安全かつ効率的な運用、工法の開発・改善に努めています。

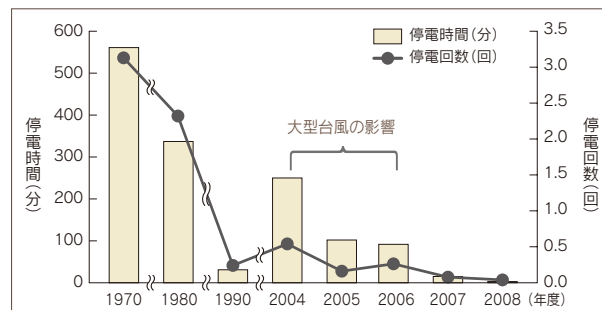
例えば、送電線や配電線の停電事故を未然に防止するため、設備巡視の強化による危険箇所の事前把握及び対策の実施や、鳥獣の営巣防止などに取り組んでいます。また、電線への樹木接触による停電事故や設備の破損を防止するため、電線との離隔調査や樹木伐採などについて、関係者の方々のご理解・ご協力を得ながら継続的に実施しています。



無停電工法

その他、雷や台風などの自然災害による停電事故の低減に向けた設備強化や、設備状態に応じたきめ細かいメンテナンスなどにも取り組んでいます。

#### ▼ お客さま1戸あたりの年間停電時間・停電回数の推移

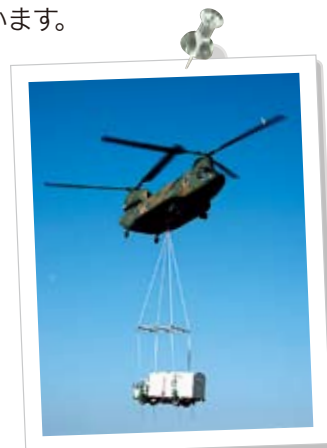


### 大規模災害への対応

台風・地震などによる災害時または災害発生が予想される場合は、非常災害対策組織を設置し、協力会社や行政機関等と連携して、迅速な停電復旧に努めています。

毎年、台風シーズン前の7月に、①指揮命令系統における各自の役割分担確認、②迅速・的確な被害状況の確認と復旧処置の立案・実施、③社内外への迅速・的確な情報提供、④迅速・的確なお客さま対応、を目的とした大規模非常災害対策訓練を実施し、実際の災害に備えています。

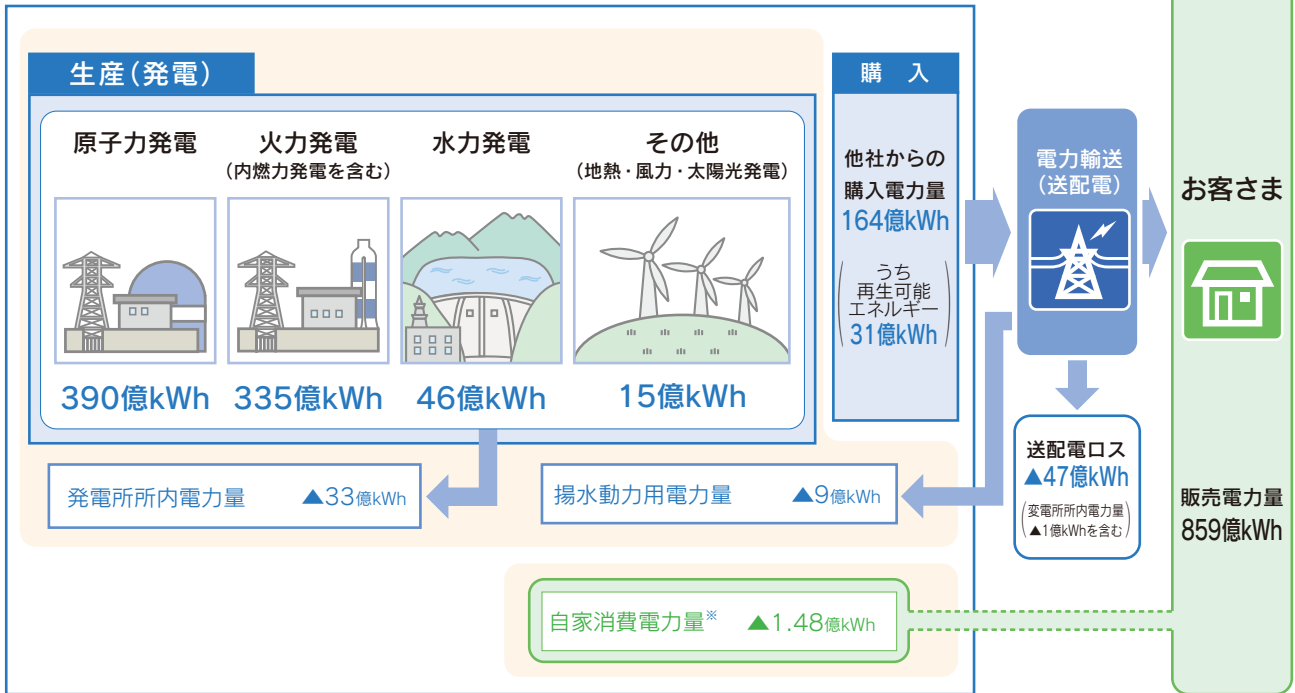
また、過去の災害経験から、自衛隊の大型ヘリコプターによる発電機車などの特殊車両の空輸技術の開発に継続的に取り組むとともに、自衛隊と訓練を重ね、台風や地震等の際、停電地区が孤立した場合も、ライフラインの迅速な復旧作業ができるよう努めています。



自衛隊との発電機車空輸合同訓練



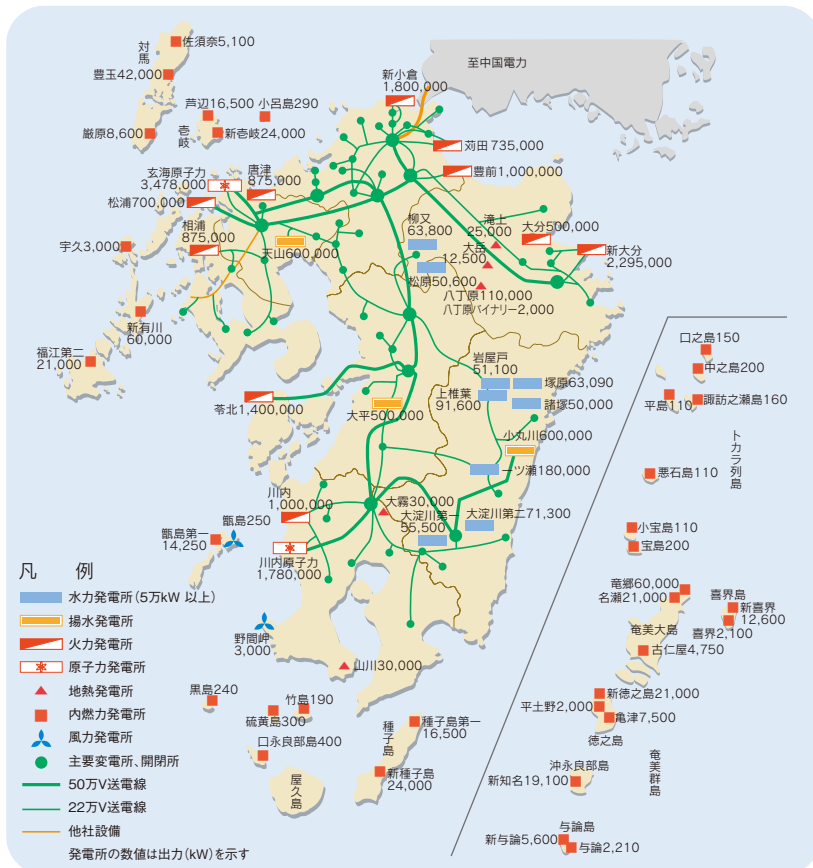
## 電気の生産から消費までの流れ



(注) 電力量については、2008年度の実績。  
なお、数値については四捨五入しています。

※販売電力量のうち、オフィス使用電力や  
建設工事用電力などの当社使用分

## 主要供給設備 (2009年3月末)



水力発電所	139か所	297.7万kW
火力発電所	10か所	1,118.0万kW
地熱発電所 (バイナリー含む)	6か所	21.0万kW
内燃力発電所 (ガスタービン含む)	34か所	39.5万kW
原子力発電所	2か所	525.8万kW
風力発電所	2か所	0.3万kW
自社計	193か所	2,002.3万kW
他社計	46か所	292.1万kW
発電設備合計	239か所	2,294.3万kW
変電所	580か所	6,850.5万kVA
送電線路こう長	9,905km	
配電線路こう長	135,727km	

(注) 供給設備の数値については、四捨五入の関係で合計が合わない場合があります。

## お客様のニーズに即したサービスの開発・提供

ITなどの最新技術を活用し、お客様の期待やニーズに応えるサービスをお届けします。

### 配電ケータイモバイルシステム

配電ケータイモバイルは、GPS機能付携帯電話を利用し、お客様申込み対応業務や停電復旧業務など、様々な現場業務を支援するシステムです。

このシステムでは、①現在位置と作業状況を把握し現場到着時間が短縮できる、②現場で必要情報を取得し的確かつ効率的に対応できる、③セキュリティ機能強化で情報漏洩を防止できることから、業務の高度化・効率化を図れるとともに、より迅速かつ確にお客様のニーズにお応えできます。

なお、当社が開発・導入したこのシ

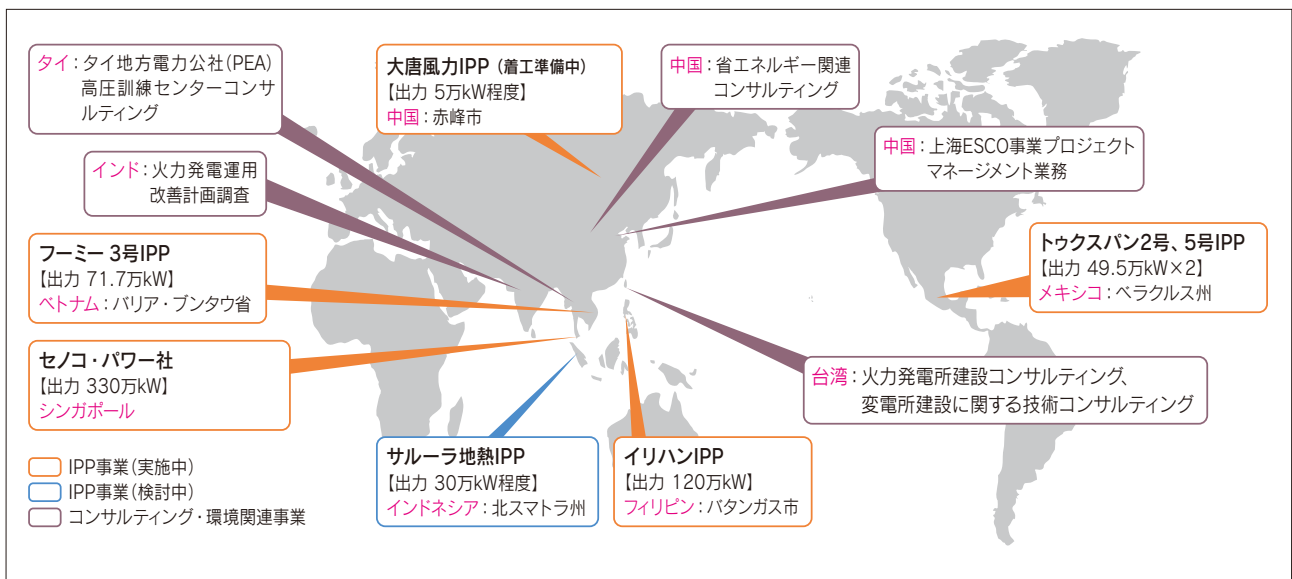
ステムは、「MCPC award 2009」(主催：モバイルコンピューティング推進コンソーシアム、後援：総務省、経済産業省)において高い評価を受け、グランプリ(大賞)及び総務大臣賞を受賞しました。



## 海外事業の展開

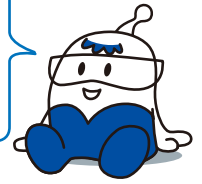
九州電力グループでは、国内の電気事業を通じて蓄積した経験、ノウハウ及び高い技術力を有する人材を活用し、アジアを中心とした海外発電事業並びにコンサルティング(電源開発、送・変電設備の調査・設計及び省エネ・環境関連)を展開しています。

### ▼海外での事業展開 (2009年3月末)



# グループの経営資源を活用した事業展開

九州電力グループは、電気事業の関連事業として、卸電気事業、設備の建設・保守事業、資機材等の調達事業、新エネルギー等のエネルギー事業などを手がけています。  
また情報通信事業、環境・リサイクル事業、生活サービス事業などの「社会・生活サービス事業」においても、お客さまや地域のニーズに即した活動を幅広く展開しています。



## エネルギー関連事業



### 設備の建設・保守

九州林産(株)	(株)九建
西日本プラント工業(株)	西技工業(株)
九電産業(株)	日本エフ・アール・ピー(株)
西日本技術開発(株)	ニンダテクノサービス(株)
(株)九電工	西技測量設計(株)
西九州共同港湾(株)	(株)ブラズワイヤー



### 資機材等の調達

(株)キューキ	(株)コンテックス
西日本空輸(株)	誠新産業(株)
九州計装エンジニアリング(株)	西日本電気鉄工(株)
光洋電器工業(株)	日豪ウラン資源開発(株)
(株)キューヘン	
九州高圧コンクリート工業(株)	



### 卸電気事業／エネルギー事業

戸畑共同火力(株)	長島ウインドヒル(株)	フーミー3・BOT・パワー・カンパニー
大分共同火力(株)	奄美大島風力発電(株)	エレクトリシダ・アギラ・テトウクスバン社
(株)キューデン・インターナショナル	鷲尾岳風力発電(株)	エレクトリシダ・ソル・テトウクスバン社
大分エル・エヌ・ジー(株)	九州冷熱(株)	キューデン・サルーラ
北九州エル・エヌ・ジー(株)	北九州エル・エヌ・ジー・ローリー販売(株)	サルーラ・オペレーション
西日本環境エネルギー(株)	(株)福岡クリーンエナジー	ライオン・パワー(2008)
(株)福岡エネルギーサービス	パシフィック・ホープ・シッピング・リミテッド	大唐中日(赤峰)新能源有限公司
みやざきバイオマスリサイクル(株)	キューデン・イリハン・ホールディング・コーポレーション	



## 情報通信事業

九州通信ネットワーク(株)	(株)アール・ケー・ケーコンピューターサービス
(株)キューデンインフォコム	鹿児島光テレビ(株)
ニシム電子工業(株)	(株)RKKCSソフト
九電ビジネスソリューションズ(株)	(株)コアラ



## 環境・リサイクル事業

九州環境マネジメント(株)  
(株)ジェイ・リライツ



## 生活サービス事業

(株)電気ビル	(株)九電オフィスパートナー	九州高原開発(株)
(株)キューデン・グッドライフ	(株)九電ビジネスフロント	伊都ゴルフ土地(株)
(株)キューデン・グッドライフ東福岡	九州住宅保証(株)	福岡新都心開発(株)
(株)キューデン・グッドライフ熊本	(株)九電ホームセキュリティ	緑ヶ丘リビングサポート(株)
(株)キューデン・グッドライフ鹿児島	(株)九電シェアードビジネス	(株)キャピタル・キューデン
(株)キューデン・グッドライフ福岡浄水	(株)九州字幕放送共同制作センター	
九電不動産(株)	(有)オーク	

安定的かつ効率的な電力の供給に努めながら、株主の皆さまに安定的な配当を行うとともに、企業の持続的発展に資する財務体質の強化や投資・出資を行っています。



## 経営概況

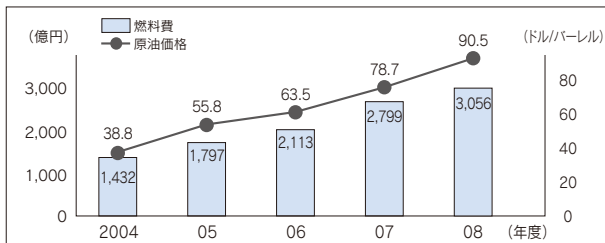
ホームページ 株主・投資家の皆さまへ 経営方針・経営計画 当社の経営概況

### 収支状況

当社はこれまで、支払利息の低減や設備投資、人員の削減などの徹底した費用削減に努め、その成果をもとに、2000年の電気事業制度改革以降、5回の料金見直しを実施し、電気料金の低廉化を進めるとともに、財務体質の改善や安定配当に必要な利益水準の確保に努めてきました。

しかしながら、従来の「中期経営方針」(2005～2009年度)において経営目標として掲げた財務指標については、燃料価格の高騰による燃料費の増加や原子力バックエンド積立金法の施行(2005年10月)に伴う外部拠出の増加などから、目標としていた水準を下回っています。

#### ▼燃料費と原油価格の推移

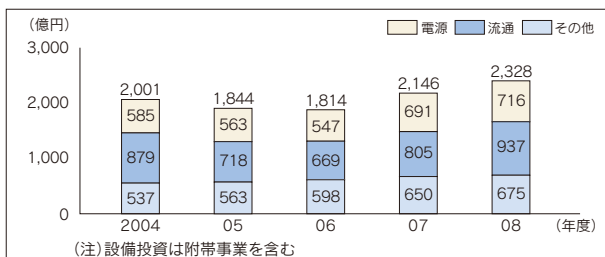


(注)原油価格は通関統計値

### 経営効率化の状況

設備の経年化の進展に伴う対策や、原子力発電所の耐震安全性評価の実施などに伴い修繕費・諸経費が増加傾向にあります。安全性・供給信頼度を維持しつつ、設備の点検・修繕内容の見直し、機器の統合や仕様の標準化など、業務全般にわたる

#### ▼設備投資額の推移



(注)設備投資は附属事業を含む

### 【従来の中期経営方針(2005～2009年度)における目標と実績】

#### ▼収益性・財務安定性

	目標 (2005～2009年度平均)	実績 (2005～2008年度平均)
FCF (フリーキャッシュフロー)	1,200億円 (1,000億円)	465億円 (403億円)
経常利益	1,100億円 (1,000億円)	916億円 (797億円)
ROA (総資産営業利益率)	3% (3%)	2.0% (2.0%)
自己資本比率	30%(30%) 2009年度末	25.7%(25.6%) 2008年度末

(注)FCF=当期純利益+減価償却費等+売却金等の増減-設備投資  
ROA=税引後営業利益/総資産  
( )内は個別

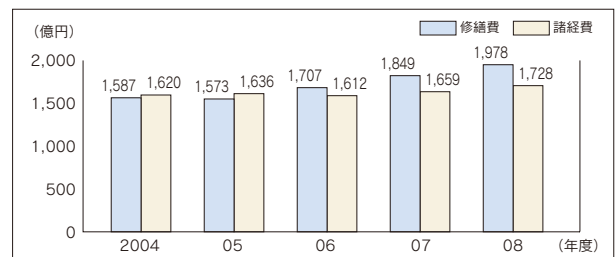
#### ▼成長性

	目標 (2009年度、対2003年度)	実績 (2008年度、対2003年度)
電気事業の 新規需要創出量	37億kWh	39億kWh
電気事業以外の グループ売上高	1,000億円増	1,199億円増

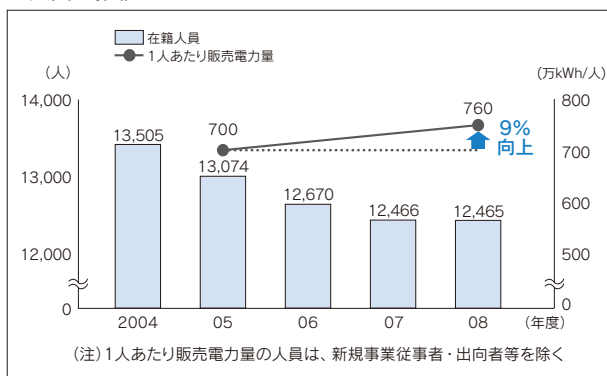
効率化に取り組んでいます。

また、ITを活用した業務プロセス改革など、業務運営の更なる効率化と労働生産性の向上に努めています。

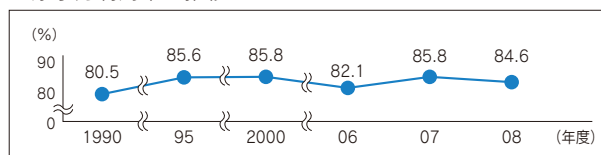
#### ▼修繕費・諸経費の推移



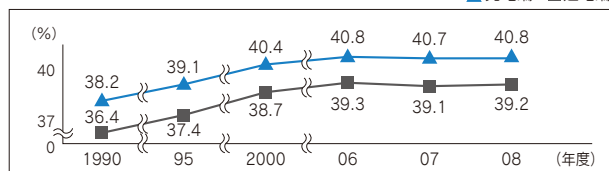
### ▼人員の推移



### ▼原子力利用率の推移



### ▼火力発電所総合熱効率の推移



(注) 高位発熱量ベース

## 2008年度決算概要

[ホームページ](#) 株主・投資家の皆さま → IR資料室 → 決算短信

2009年3月期の連結収支につきましては、収入面では、電気事業において、販売電力量の減少はありましたが、燃料費調整制度などにより、電灯電力料が増加したことから、売上高(営業収益)は前期に比べ2.8%増の1兆5,241億円、経常収益は2.7%増の1兆5,346億円となりました。一方、支出面では、電気事業において、年度前半の燃料価格の高騰などにより、燃料費や購入電力料が増加したことなどから、経常費用は4.4%増の1兆4,841億円となりました。

以上により、経常利益は30.3%減の504億円となりました。

また、有価証券売却益54億円を特別利益に計上したことから、当期純利益は18.5%減の339億円となりました。

### 連結収支における事業別の業績

#### ●電気事業

売上高は、電灯電力料の増加により、前期に比べ2.6%増の1兆4,007億円となりました。営業利益は、燃料費や購入電力料の増加などにより、21.4%減の741億円となりました。

#### ●エネルギー関連事業

売上高は、前年の第2四半期末に連結子会社が2社増加したことなどにより、前期に比べ6.9%増の1,572億円となりました。営業利益は、プラント工事に係る売上原価の増加などにより、11.4%減の75億円となりました。

### ▼連結収支概況

(単位：億円、%)

	2008年度	2007年度	増減	前年比
営業収益(売上高)	15,241	14,823	418	102.8
営業外収益	104	112	▲8	92.7
経常収益	15,346	14,935	410	102.7
営業費用	14,394	13,768	626	104.6
営業外費用	446	443	2	100.6
経常費用	14,841	14,212	629	104.4
(営業利益)	(847)	(1,055)	(▲208)	(80.3)
経常利益	504	723	▲219	69.7
特別利益	54	-	54	-
法人税等	214	298	▲83	72.0
少数株主利益	3	8	▲4	43.7
当期純利益	339	417	▲77	81.5

### ▼セグメント別の業績(内部取引消去前)

(単位：億円、%)

	2008年度	2007年度	増減	前年比	
電気事業	売上高	14,007	13,657	350	102.6
	営業利益	741	943	▲201	78.6
エネルギー関連事業	売上高	1,572	1,470	101	106.9
	営業利益	75	85	▲9	88.6
情報通信事業	売上高	927	884	43	104.9
	営業利益	7	▲16	24	-
その他の事業	売上高	244	248	▲4	98.3
	営業利益	16	34	▲18	47.5

(注)「電気事業」は、当社事業から附帯事業を除いたものです。

#### ●情報通信事業

売上高は、ブロードバンドサービスの利用回線数の増加などにより、前期に比べ4.9%増の927億円、営業利益は24億円改善し、7億円となりました。

#### ●その他の事業

売上高は、前期に比べ1.7%減の244億円となりました。営業利益は、賃貸用ビルの建替えに伴う費用の増加などにより、52.5%減の16億円となりました。

# 展示施設

## 九州エネルギー館

福岡市中央区薬院4-13-55  
TEL.092-522-2333

- 開館時間：午前9時～午後5時
- 休館日：毎週月曜日(但し祝祭日の場合はその翌日)、年末年始(12月29日～1月2日)



## 玄海エネルギーパーク

佐賀県東松浦郡玄海町  
今村字浅湖4112-1  
TEL.0955-52-6409

- 開館時間：午前9時～午後5時
- 休館日：毎月第3月曜日(但し第3月曜日が祝祭日の場合はその翌日)、年末年始(12月29日～1月2日)



## 川内原子力発電所展示館

鹿児島県薩摩川内市久見崎町  
字小平1758-1  
TEL.0996-27-3506

- 開館時間：午前9時～午後5時
- 休館日：年末年始(12月29日～1月1日)



## 八丁原発電所展示館

大分県玖珠郡九重町大字  
湯坪字八丁原601  
TEL.0973-79-2853

- 開館時間：午前9時～午後5時
- 休館日：年末年始(12月29日～1月3日)



## 山川発電所展示室

鹿児島県指宿市山川小川2303  
TEL.0993-35-3326

- 開館時間：午前9時～午後5時
- 休館日：年末年始(12月29日～1月3日)



## 野間岬ウインドパーク展示館

鹿児島県南さつま市笠沙町  
片浦16257-1  
TEL.0993-59-5522

- 開館時間：午前9時～午後5時
- 休館日：年末年始(12月29日～1月3日)



## 天山発電所展示館

佐賀県唐津市巖木町天川1327  
TEL.0955-65-2266

- 開館時間：午前10時～午後4時
- 休館日：年末年始(12月29日～1月3日)  
地下発電所は、土・日・祝日は見学出来ません。



## 大平発電所展示室

熊本県八代市坂本町鮎埴に1196-2  
TEL.0965-45-2761

- 開館時間：午前9時～午後4時
- 休館日：年末年始(12月29日～1月3日)



## 一ツ瀬発電所資料館

宮崎県西都市大字中尾字  
的場509-12  
TEL.0985-24-2140  
(宮崎支店広報グループ)

- 開館時間：午前9時～午後5時
- 休館日：毎週月曜日及び年末年始(12月29日～1月3日)



## 小丸川発電所展示館「ピノックパーク」

宮崎県児湯郡木城町大字  
石河内字大平1246-14  
TEL.0983-39-1990

- 開館時間：午前9時～午後5時
- 休館日：毎週月曜日(但し祝祭日の場合はその翌日)、年末年始(12月29日～1月3日)



## きゅうでん ぱらっとホール

鹿児島県薩摩川内市鳥追町1-1  
TEL.0996-23-2131

- 開館時間：午前9時～午後6時
- 休館日：年末年始(12月29日～1月1日)



## eキッチンスタジオ福岡 (業務用電化厨房体験施設)

福岡市中央区薬院4-2-28  
TEL.092-733-6509  
(福岡支店営業部エネルギーサポートグループ)

- 開館時間：午前9時30分～午後5時
- 休館日：土・日・祝日



## イリス北九州

北九州市小倉北区室町1-1-1  
リバーウォーク北九州5F  
TEL.093-533-2074

- 開館時間：午前10時～午後6時
- 休館日：年末年始(12月31日～1月3日)

## イリス福岡

福岡市中央区天神1-7-11イリスビル6F  
TEL.092-733-2090

- 開館時間：午前10時～午後8時
- 休館日：毎月第3火曜日(7月、8月、12月は除く)  
年末年始(12月31日～1月1日)

## イリス佐賀

佐賀市神野東2-3-6  
TEL.0952-33-0800

- 開館時間：午前9時～午後5時
- 休館日：毎月第3日曜日、年末年始(12月29日～1月3日)

## イリス長崎

長崎市銅座町2-15NKイリスビル  
TEL.095-829-2990

- 開館時間：午前10時～午後6時
- 休館日：毎月第3火曜日、年末年始(12月29日～1月3日)

## イリス大分

大分市金池町2-4-6  
TEL.097-534-2877

- 開館時間：午前10時～午後6時
- 休館日：毎月第3水曜日、年末年始(12月29日～1月3日)

## イリス熊本

熊本市上通町2-17びれす熊日会館7F  
TEL.096-326-1666

- 開館時間：午前10時～午後6時
- 休館日：毎月第3火曜日、年末年始(12月29日～1月3日)

## イリス宮崎

宮崎市橋通西4-2-23  
TEL.0985-31-7075

- 開館時間：午前9時～午後5時
- 休館日：毎月第3日曜日、年末年始(12月29日～1月3日)

## イリス鹿児島

鹿児島市東千石町1-38  
鹿児島商工会議所ビル「アイム」2F  
TEL.099-224-6896

- 開館時間：午前10時～午後6時
- 休館日：毎月第3火曜日、年末年始(12月29日～1月3日)

## あ

## イントラネット

インターネットの技術を利用した、組織内の情報通信網。電子メールやブラウザーなどで情報交換を行い、情報の一元化・共有を図る。

## エネルギーセキュリティ

国民の安定した生活に資することを目的とした、エネルギーの安定供給確保に向けた安全保障のこと。

## 温室効果ガス

大気中の二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)やメタンなどのガスは太陽からの熱を地球に封じ込め、地表を温める働きがある。これらのガスを温室効果ガスという。温室効果ガスにより地球の平均気温は約15℃に保たれているが、仮にこのガスがないとマイナス18℃になってしまう。産業革命以降、温室効果ガスの大気中の濃度が人間活動により上昇し、「温室効果」が加速していると言われている。京都議定書では、地球温暖化防止のため、CO<sub>2</sub>、メタン(CH<sub>4</sub>)、一酸化二窒素(N<sub>2</sub>O)、ハイドロフルオロカーボン(HFC)、パーフルオロカーボン(PFC)、六フッ化硫黄(SF<sub>6</sub>)が削減対象の温室効果ガスと定められている。

## か

## 環境影響評価(環境アセスメント)

環境に大きな影響を及ぼすおそれがある事業について、その事業の実施にあたりあらかじめその事業の環境への影響を調査、予測、評価し、その結果に基づき、その事業について適正な環境配慮を行うこと。わが国においては、環境影響評価法等に基づき、道路やダム、鉄道、発電所などの事業者が行う対象事業について、地域住民や専門家、環境担当行政機関が関与する手続が実施されている。環境汚染を未然に防止するための重要な手段の一つである。

## 環境調査

川内原子力地点において実施した環境アセスメント(環境影響評価)、地質調査、気象調査の3調査をまとめて、当社では、環境調査と呼んでいる。

## 関係会社

子会社と関連会社を総称して関係会社という。子会社とは、議決権(株主が株主総会の決議に参加する権利)の過半数を所有するなど、親会社が財務・営業・事業の方針を決定する機関(意思決定機関)を支配している会社をいう。関連会社とは、議決権の20%以上を所有するなど、財務・営業・事業の方針の決定に対して重要な影響を与えることができる子会社以外の会社をいう。当社の場合、関係会社は74社あり(2009年5月末現在)、(株)九電工、戸畑共同火力(株)及び九州通信ネットワーク(株)などが含まれている。

## 原子燃料サイクル

天然に存在するウランが採掘、精錬、転換、濃縮、再転換、加工されて原子燃料として原子炉で使用され、さらに原子炉から取り出さ

れたあと再処理、加工され再び原子炉で使用され、不要物が廃棄物として処理処分されるまでの一連の循環(サイクル)のこと。核燃料サイクルともいう。エネルギー資源の乏しいわが国にとって、将来にわたり安定してエネルギーを確保していくためには、使用済燃料を再処理してプルトニウムやウランを回収し、再び燃料として使用する原子燃料サイクルの確立が不可欠であり、当社は、原子燃料サイクルを確立するために、原子力発電所の安全確保を最優先として、プルスーマル計画に取り組んでいる。

## 原子力バックエンド積立金法

2005年10月に施行された「原子力発電における使用済燃料の再処理等のための積立金の積立て及び管理に関する法律」。六ヶ所再処理工場での再処理、再処理関連施設の解体・処分等のバックエンド費用を資金管理法へ積立てる制度が整備された。

## 原子力利用率

一定期間における原子力発電所の実際の発電電力量と、その期間中に定格電気出力で発電したと仮定した場合の発電電力量の比をいい、設備がどのくらい有効に使われているかを見る指標。

## コーポレート・ガバナンス

企業的意思決定、経営執行とそれらに対する監視、けん制のこと。具体的には、株主の代理人として選任された取締役で構成する取締役会による企業経営の重要事項の決定や執行状況の監督、監査役による取締役の職務執行に対する監査など。

## コンプライアンス

「法令遵守」と直訳されるが、法令や規則だけに留まらず、社会的規範や企業倫理(モラル)を守ることも「コンプライアンス」に含まれる。今日ではCSR(企業の社会的責任)と共に非常に重視されている。

## さ

## 再生可能エネルギー

石油や石炭、天然ガスなどの限りある化石燃料と異なり、太陽光、水力、風力、バイオマス、地熱、波力、海洋温度差など繰り返し再生が可能な自然界のエネルギーのこと。

## 循環型社会

有限な資源の持続性を確保するため、大量生産・大量消費・大量廃棄型の経済社会を見直し、あらゆるものを資源として循環し、または様々なかたちで繰り返し利用するとともに、廃棄物として処分するものを最少限とすることで、環境への負担をできる限り少なくした社会のこと。

## 新エネ百選

経済産業省と独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)が地域性を考慮した全国の新エネルギー等の利用に関する取組みを評価し、優れたものを選定するもので、2008年度に初めて実施。

## 新エネルギー(新エネ)

太陽、風力、バイオマス、地熱、水力などから生成される「再生可能エネルギー」のうち、その普及のために支援を必要とするものをいう。温暖化対策など地球環境保全や、エネルギー自給率向上の面から普及が期待されている。新エネルギー利用等の促進に関する特別措置法では、太陽光発電、風力発電、太陽熱利用、バイオマス発電、地熱発電、中小水力発電などが該当する。なお、経済的に成り立っており、普及拡大の余地に乏しい大規模水力発電は、再生可能エネルギーであっても新エネルギーとは位置付けられていない。

## ステークホルダー

企業の事業活動に係わりを有するすべての人や組織のことで、お客さま、株主・投資家、地域社会、ビジネスパートナー(取引先・関係会社)、社員などをいう。

## 送配電ロス(率)

電気がお客さまに届くまでの過程で、送電線・配電線の抵抗により、一部の電気エネルギーが熱などとして失われること。また、送配電ロス率とは、発電所から送電した電力に対して、送電線・配電線で失われる電力が占める割合のこと。

## た

## 地球環境問題

地球温暖化、オゾン層の破壊、酸性雨など、その被害・影響が国境を越えて地球規模にまで広がっている問題と、開発途上国における熱帯林の減少や野生動物種の減少など、その解決のために先進国等による国際的な取組みが必要とされる問題のことであり、地球的視野に立つて取り組まれるべき環境問題である。

## 中間貯蔵施設

原子力発電所で使われた燃料(使用済燃料)を再処理するまでの間、原子力発電所以外の施設で中間的に貯蔵・管理する施設であり、乾式貯蔵施設と湿式貯蔵施設の2種類がある。

## な

## 内部統制

企業などの組織内部において、違法行為・不正、ミス及びこれらに伴う損失の発生を防ぐためにコンプライアンス体制やリスク管理体制の整備を図るなど、健全で効率的な企業活動が行われるような仕組みを確保すること。

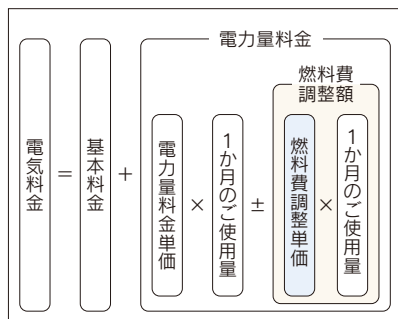
## 熱効率

火力発電所における熱効率は、燃料の燃焼によって得られた熱エネルギーのうち、有効に電気となった割合を表すときに用いる数値で、発電端熱効率と送電端熱効率がある。発電端熱効率は、発電機で発生した電力量と電力発生のために供給された熱エネルギーの比。送電端熱効率は、発電機で発生した電力量から発電所を運転するために必要な設備(ポンプ、ファン、照明等)で消費する電力量を差し引いたものと電力発生のために供給された熱エネルギーの比を指している。

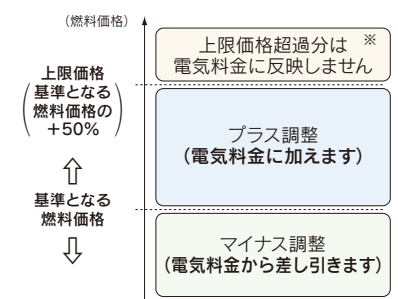
## 燃料費調整制度

原油・液化天然ガス・石炭の燃料価格が、基準となる燃料価格より上昇または低下した場合、それに応じて電気料金を毎月調整する制度。電気料金は、基本料金と電力量料金の合計額。電力量料金は、ご使用量に応じて算定するが、燃料費調整額を加算または差引きする。また、燃料費調整額は燃料費調整単価にご使用量を乗じたもの。

### 〔従量制供給の場合〕



### 〔電気料金の調整イメージ図〕



## は

### バイオマス

バイオ(生物)とマス(量)を合わせた造語で、大量にある生物資源のこと。畜産廃棄物、生ゴミ、間伐材などの林地残材、製材や家屋解体などで発生する木屑など様々なものがある。

### 排出原単位

1kWhの電気を発電または使用する際に排出される二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)、窒素酸化物(NOx)、硫黄酸化物(SOx)などの量のこと。

### 排除命令

景品表示法に違反する行為があった場合、公正取引委員会が事業者に対し、行為の差し止めや、再発防止を命じる行政処分。主に商品の品質や価格が実際より優良・有利であると消費者に誤認させ、不当に顧客を誘引するおそれがあると認められる表示が違反の対象となる。

### バイナリー発電

加熱源系統と媒体系統の2つ(バイナリー)の熱サイクルを利用して発電するもので、地熱発電などに使われている。加熱源より沸点の低い液体(媒体)を加熱・蒸発させてその蒸気でタービンを回す方式。

### ヒートポンプ

空気や水などの熱(ヒート)をくみ上げて(ポンプ)、その熱のエネルギーを高くしたり、低くする技術のこと。空気を圧縮すると温度が高

くなり、急に膨張すると温度が低くなる原理を用いている。冷却と加熱を行うことができ、エアコンや冷蔵庫などに取り入れられている。

### 非化石エネルギー

エネルギー資源の分類で、原子力エネルギーや水力発電、地熱発電、新エネルギーなどのこと。一方、化石エネルギーは、石炭、石油、天然ガス、LPガスなど、古代地質時代の動植物の死骸が化石化し、燃料となったもの。

### 品質マネジメントシステム

品質に関して組織を指揮し、管理するためのマネジメントシステム。当社では、法令及び民間規格「原子力発電所の安全のための品質保証規程(JEAC4111)」の要求事項に基づき、社長をトップとするマネジメントシステムを構築している。

### プラグインハイブリッド車

家庭用コンセントからの充電に対応した自動車。従来のハイブリッド車に比べ、バッテリーのみでの走行距離が長くなる。充電に夜間電力を利用することによりランニングコストの負担を軽くすることができ、また環境への負荷も減らすことができる。

### ブルサーマル

原子力発電所で使用された使用済燃料を再処理して取り出されたプルトニウムとウランを酸化物の形で混合した燃料をMOX(Mixed Oxide: 混合酸化物)燃料といい、これを現在稼働している原子力発電所で燃料として利用すること。

### プルトニウム

天然に微量に存在する放射性元素。ウラン238が中性子を吸収してウラン239になり、それがβ崩壊してネプツニウム239に、再びβ崩壊してプルトニウム239になる。このプルトニウム239は、核分裂をする性質をもっているためMOX燃料に用いられる。

### フレックスタイム勤務制度

自由な時間に出・退社し、所定の時間数を勤務する制度。コアタイムを設ける場合もある。1987年の労働基準法改正で法制化された。自由勤務時間制。変動労働時間制。

### 保全プログラム

プラントの運転に必要な設備や機器について、点検・補修等の方法、実施頻度及び時期などを具体的に定めたもの。

## ま

### ミリシーベルト

放射線が人体に与える影響を表す単位(Sv)。体の外から放射線を受けたり、食物などを通じて体内に入った放射性物質によって内部被ばくしたときの人体への影響の度合いを表す。1ミリシーベルトは1シーベルトの1/1000。

## ら

### 連結子会社

会計・会社の計算に使われる用語の一つで、連結決算を行う際に連結の範囲に含まれる子会社(親会社によって、意思決定機関を支配されている会社のこと)のことを指す。

## わ

### ワーク・ライフ・バランス

仕事と生活の調和とも呼ばれており、仕事や家庭生活、地域生活、個人の自己啓発など、様々な活動について自らが希望するバランスで展開できる状態のこと。

## C

### CO<sub>2</sub>排出クレジット

温室効果ガス排出抑制のためのプロジェクトで、実際に削減できたとして国連が認証した削減量(排出枠)ならびに、国連が先進国に割り当てた排出枠。排出量取引などにより、排出枠が不足する国へ移転できる。

### CSR

Corporate Social Responsibility(企業の社会的責任)の略で、『経済(財務)』はもとより、『環境』、『社会』の3つの側面(トリプルボトムライン)から、総合的に取り組み、社会の持続的な発展に貢献すること。

## I

### IPP(独立系発電事業者)

Independent Power Producerの略。発電から小売までを行う電力会社と異なり、発電だけを行って電気事業者に卸売り販売をする独立系の事業者。日本の電力会社も海外企業などと共同で発展途上国などでIPP事業を積極的に進めている。

### IR

Investor Relations(インベスター・リレーションズ)の略で、投資家向け広報・広聴活動のこと。投資家向けに会計情報ははじめとした企業活動に関する広範な情報開示を適時、公平、継続的に行うことにより、投資家の理解度を高め、適正な株価形成と資金調達円滑化を図る。

## L

### LNG(液化天然ガス)

Liquefied Natural Gasの略。メタン(CH<sub>4</sub>)、エタン(C<sub>2</sub>H<sub>6</sub>)を主成分とする天然ガスを、極低温(約マイナス160℃)まで冷却して液体にしたもの。LNG船と呼ばれる特殊な船舶で輸送され、荷揚げ後に再度気化して発電用燃料などとして使用する。

## M

### MOX燃料

Mixed Oxideの略。資源を有効利用するために、ウランと、使用済燃料を再処理して回収したプルトニウムを酸化物の形で混合して作った燃料で、ブルサーマルの燃料として使用する。

## R

### RPS法

Renewable Portfolio Standardの略。小売電気事業者に、新エネルギー等から発電される電気を一定量以上利用することを義務づけることにより、電力分野における新エネルギー等の更なる導入拡大を図ることを目的とした法律。



## 九州電力の会社概要 (2009年3月31日現在)

設立年月日	1951年5月1日
資本金	2,373億円
株主数	182,869名
供給区域	福岡県、佐賀県、 長崎県、大分県、 熊本県、宮崎県、 鹿児島県
売上高	14,301億円
総資産額	38,341億円
従業員数	12,465名
お客さま数	電灯 747万口 電力 100万口 計 847万口

### ■主要事業所

本店	〒810-8720 福岡市中央区渡辺通2-1-82 TEL(092)761-3031
北九州支店	〒802-8521 北九州市小倉北区米町2-3-1 TEL(093)531-1180
福岡支店	〒810-0004 福岡市中央区渡辺通2-1-82 TEL(092)761-6381
佐賀支店	〒840-0804 佐賀市神野東2-3-6 TEL(0952)33-1123
長崎支店	〒852-8509 長崎市城山町3-19 TEL(095)864-1810
大分支店	〒870-0026 大分市金池町2-3-4 TEL(097)536-4130
熊本支店	〒862-0951 熊本市上水前寺1-6-36 TEL(096)386-2200
宮崎支店	〒880-8544 宮崎市橘通西4-2-23 TEL(0985)24-2140
鹿児島支店	〒890-8558 鹿児島市与次郎2-6-16 TEL(099)253-1120
東京支社	〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-7-1 TEL(03)3281-4931
総合研究所	〒815-8520 福岡市南区塩原2-1-47 TEL(092)541-3090

本書についてのご意見・お問い合わせ先

九州電力株式会社 総務部CSRグループ

〒810-8720 福岡市中央区渡辺通2-1-82

TEL/FAX: 092-726-1564

E-mail: csr@kyuden.co.jp

ホームページ

[http://www.kyuden.co.jp/csr\\_index/](http://www.kyuden.co.jp/csr_index/)



ずっと先まで、明るくしたい。

九州電力はチーム・マイナス6%に参加しています。



みんなで止めよう温暖化

チーム・マイナス6%



印刷用インキは環境にやさしい大豆油インキを使用しています。



100% RECYCLED PAPER  
古紙/パルプ配合率100%  
再生紙を使用



Kyushu Environmental Management Corporation  
九州電力グループで発生・回収した古紙を利用し、再生した用紙を活用しています。